

鳥取県立図書館
令和7年度学校図書館活用教育普及講座

GIGAスクール時代の学校図書館の極意

～子どもの探究が確実に変わる～

20250805（西部：米子会場）
20250806（東部：鳥取会場）

伊勢市教育委員会事務局 教育メディア 読書推進課係

子ども読書活性化担当 主幹 宮澤優子

宮澤優子と申します

- ・伊勢市教育委員会事務局教育メディア課 子ども読書活性化担当 主幹
- ・Google認定教育者Lev.1・2
- ・GEG Minami Shinshu共同リーダー
- ・教育著作権フォーラム初中等WG幹事
- ・日本デジタル・シティズンシップ教育研究会専門委員
- ・農家のお母ちゃん



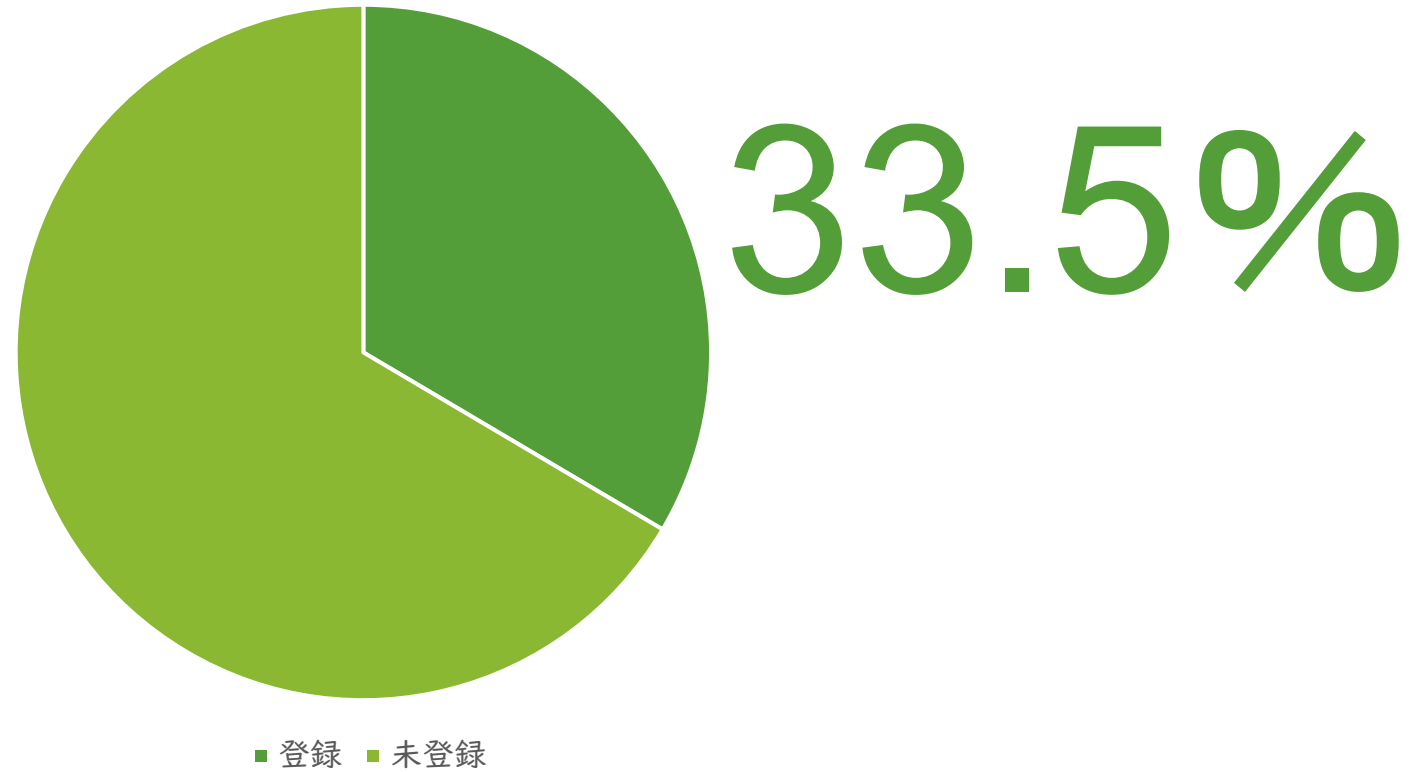
主戦場が学校図書館の学校司書です

いきなりですが 学校図書館の話の前に

公共図書館の現状から学校図書館の在り方を考える

公共図書館の利用「登録」者

公共図書館利用登録数の人口に占める割合



誰がどのくらい 公共図書館を**利用**しているのか

三根慎二（三重大学 人文学部） 上田修一（立教大学 文学部）

4. 結論

本研究の結果から、

1) 公共図書館の**頻繁利用者は 14%程度**

2) 図書館の利用には、継続性が見られ、頻繁利用者、中間利用者、非利用者がいる

3) 公共図書館の利用と関係が見られた伝統的な要因は、本研究においても多くは有意であるが一部には有意差はないことがわかった。

今後は、多変量解析等を行うことによって、図書館の利用頻度と各種変数との相互関係を分析する。



施設の問題か？市民の問題か？

× 2割の市民しか「使わない」

○ 2割の市民しか「有効に使えない」

この状況に学校図書館はどう影響しているでしょう？

図書館は地域の情報拠点



「2割」という数字に、ふと。

「放っておいても読書をする子の割合と
市民の公共図書館コア利用者の割合と

これって、近くないか？」

学校図書館が機能したら（=ちゃんと仕事したら？）この数字は変わるのでは？

市民が 「情報拠点」である図書館を 有効活用できるように

公共図書館を有効に使える市民を育てるために

学校図書館のアドバンテージ

即効性

- 学びの場で指導が入りやすい

網羅性

- 全児童生徒、教職員がもれなく利用者

必要性

- 学習指導要領に活用が明記されている

确实性

- 教科学習との連動による活用の場の担保

学校図書館からテコ入れする理由

公共図書館の
非来館者に
リーチ

子どもたちの
図書館
活用能力向上

図書館
活用能力
獲得層が
厚くなる

未来の図書館
利用者像が
変わる

図書館を有効活用できる市民への 道筋

家庭教育

学校教育
(学校図書館)

社会教育
(公共図書館)

学校図書館が機能していることが前提

ところが学校図書館は 大きな課題を抱えている

物が無い

量的にも質的にも
使える

- 資料
- 予算

基本機能を支えるための

人がいない

基本機能まわせる

- 司書
- 司書教諭

時間のある

場がない

- 時間
- 機会

人と物がそろった

「学校図書館」を知る

本来の学校図書館の姿を捉える

学校図書館を語るときに

それぞれが思い浮かべる

「学校図書館」が違う

まずは、、、

今（＝GIGAスクール時代）の
学校図書館のスタンダードを知り、
今後の取り組みの土台とする

多様な子どもたちのための、
学校図書館を目指す

バリアフリー



インクルーシブ

より広範な多様性

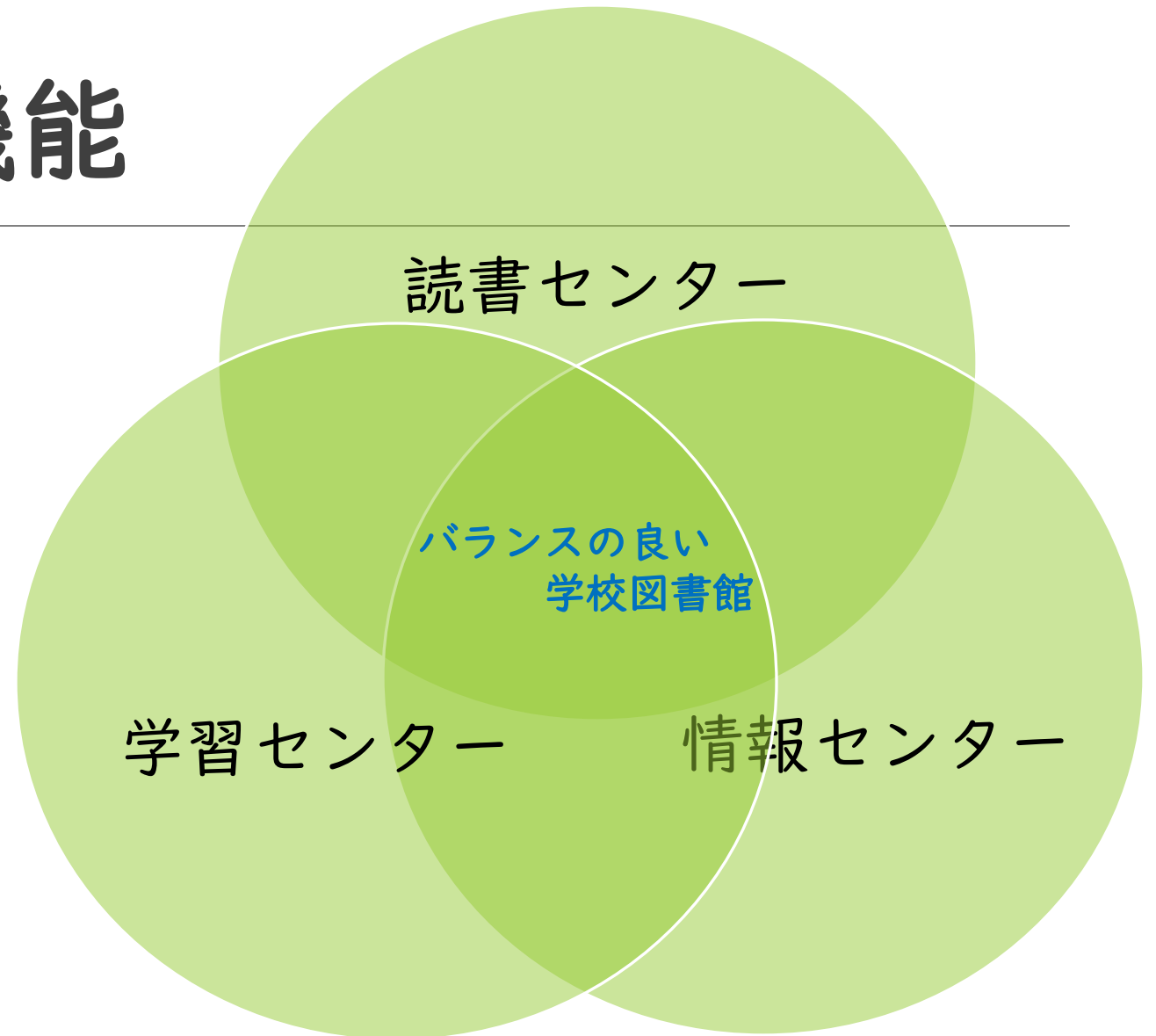
年齢、性別、国籍、文化

学校図書館の機能

学校図書館とは？

「小学校、中学校及び高等学校において、図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料を収集し、整理し、及び保存し、これを見童又は生徒及び教員の利用に供することによつて、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、見童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備」

(学校図書館法第二条より抜粋)



読書センターとは？

文部科学省子どもの読書サポーターズ会議の「これからの学校図書館の活用の在り方等について」より

学校図書館は、児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、**自由な読書活動**や**読書指導の場**である「読書センター」としての機能を果たす。

～学校教育の一環として、すべての子どもに、**本を選んで読む経験**、
読書に**親しむきっかけ**を与える。

～子どもたちが、自由に好きな本を選び、静かに読みふける**場を提供**したり、
様々な本を**紹介**して、読書の**楽しさを伝える**。

学習・情報センターとは？

文部科学省子どもの読書サポーターズ会議の「これからの学校図書館の活用の在り方等について」より

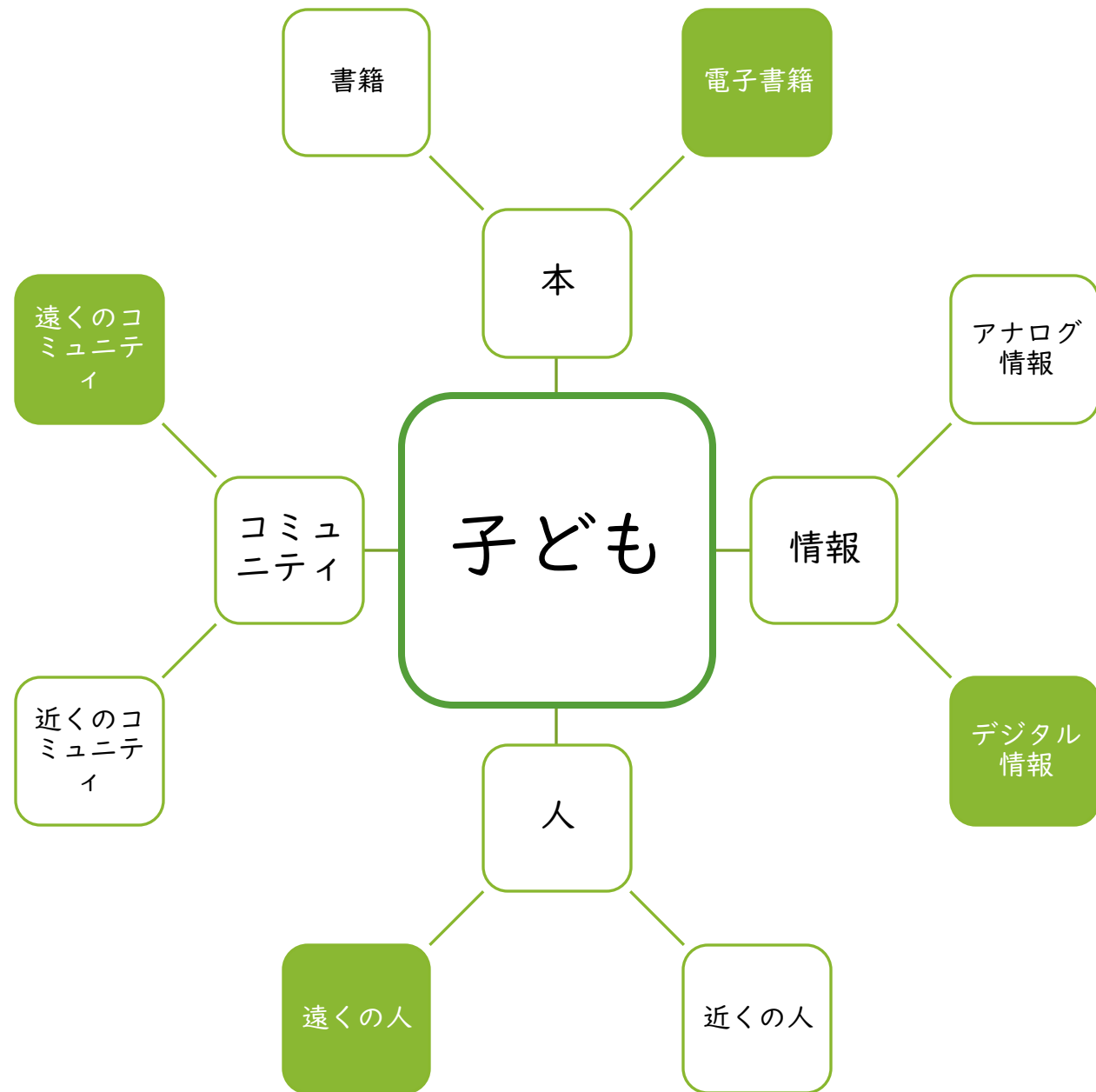
学校図書館は、児童生徒の自発的、主体的な**学習活動を支援**するとともに、**情報の収集・選択・活用能力を育成**して、**教育課程の展開に寄与**する「学習・情報センター」としての機能を果たす。

- ～図書室で、図書館資料を使って授業を行うなど、教科等の日常的な指導において**活用される**。
- ～教室での授業で学んだことを確かめ、広げ、深める、資料を集めて、読み取り、自分の考えをまとめて発表するなど、児童生徒の**主体的な学習活動を支援**する。
- ～利用指導等の取組を通じ、**情報の探し方・資料の使い方を教える**。
- ～児童生徒が学習に使用する資料や、児童生徒による学習の成果物などを**蓄積**し、**活用**できるようにする。

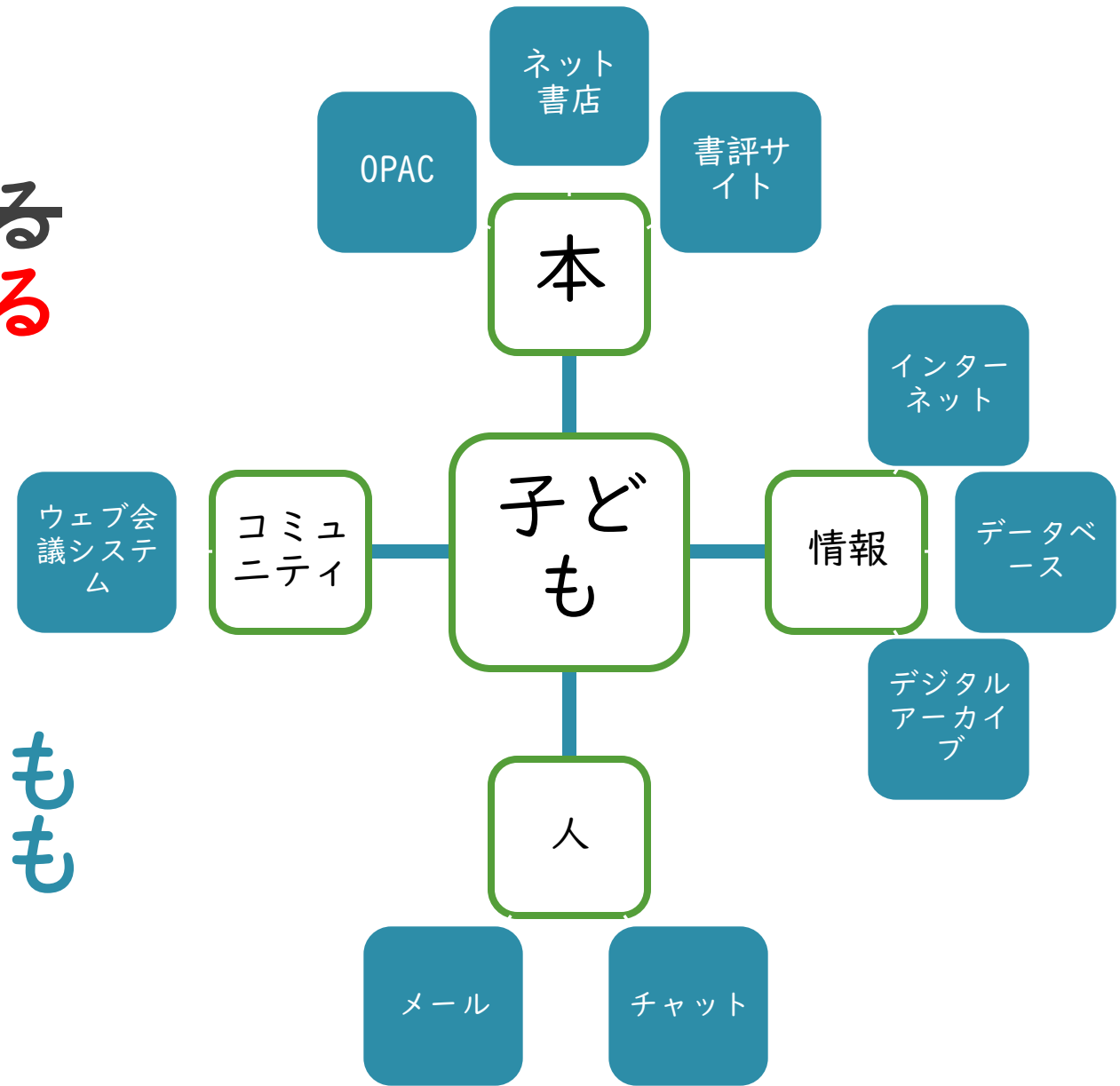
GIGAスクールによる 学校図書館の変化

GIGAスクールで
「つなぐもの」がかわる
ふえる

アナログもデジタルも
リアルもバーチャルも



GIGAスクールで
「つなぎかた」がかわる
ふえる



アナログもデジタルも
リアルもバーチャルも

「本」にとらわれない学校図書館

～広い視野・幅広い知識・柔軟な思考～

学校図書館とは
社会に存在する

もはや紙の本だけで
情報がとれる時代
ではない

「情報」や「技術」に

「いつでも」「自由」に

アクセスできる場所

「制限」された環境では
活動も「制限」される

ところで、、、

図書館 ≠ 図書室

ハードを整えても学校図書館は機能しない

→機能させる主体が必要

機能している学校図書館の姿 読書センター編

～そもそもの読書センターの読書支援と、GIGAスクール

そもそも読書センターとは？

みなさんが知っている「読書センター」機能と、合致しますか？

読書センターあるある

- ・ 読書センターの機能は読書「案内」だけのようにとらえられている問題
- ・ 「読書」のイメージが狭すぎる問題（分類、読み方）
- ・ 電子書籍アレルギー（アンチ・デジタル）問題

国語科の教科書に明記された 多様な「読む」

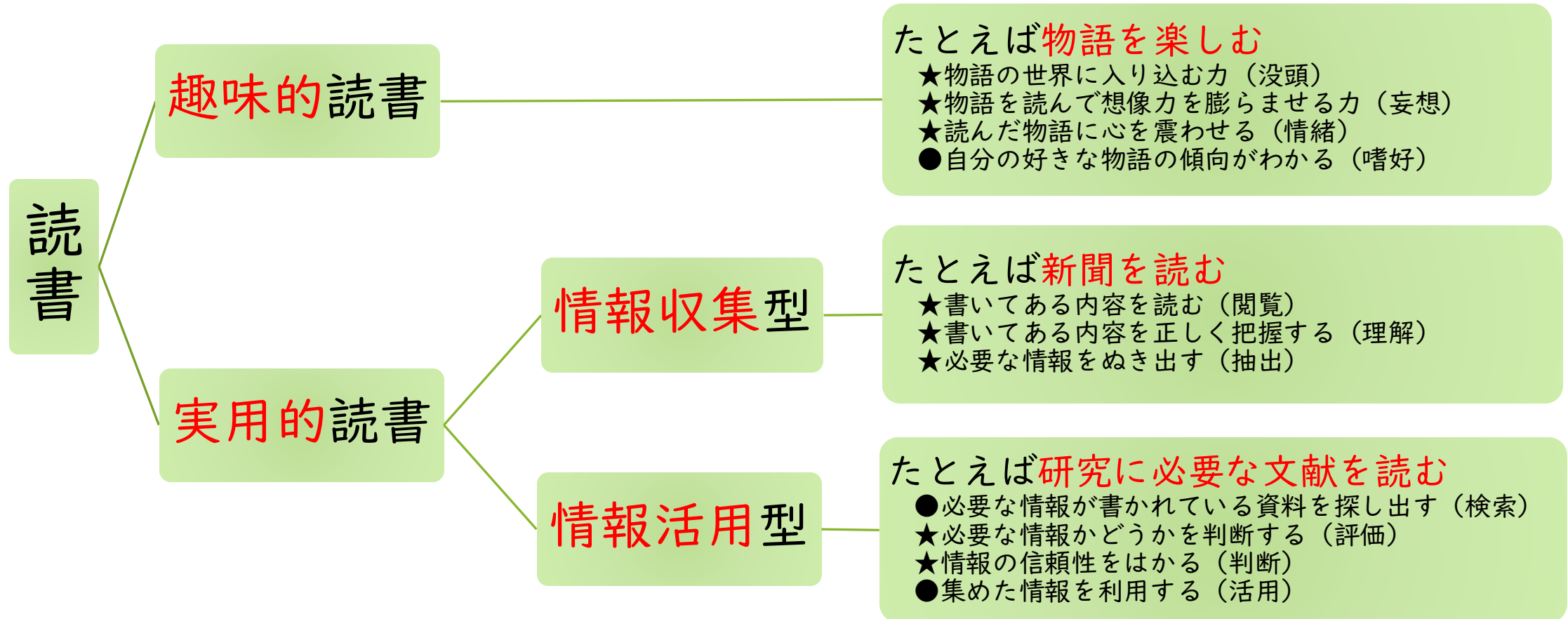
- ・ ていねいに読む
- ・ 大まかに読む
- ・ 目次から選んで読む
- ・ 索引から探して読む

あれもこれも「読書」

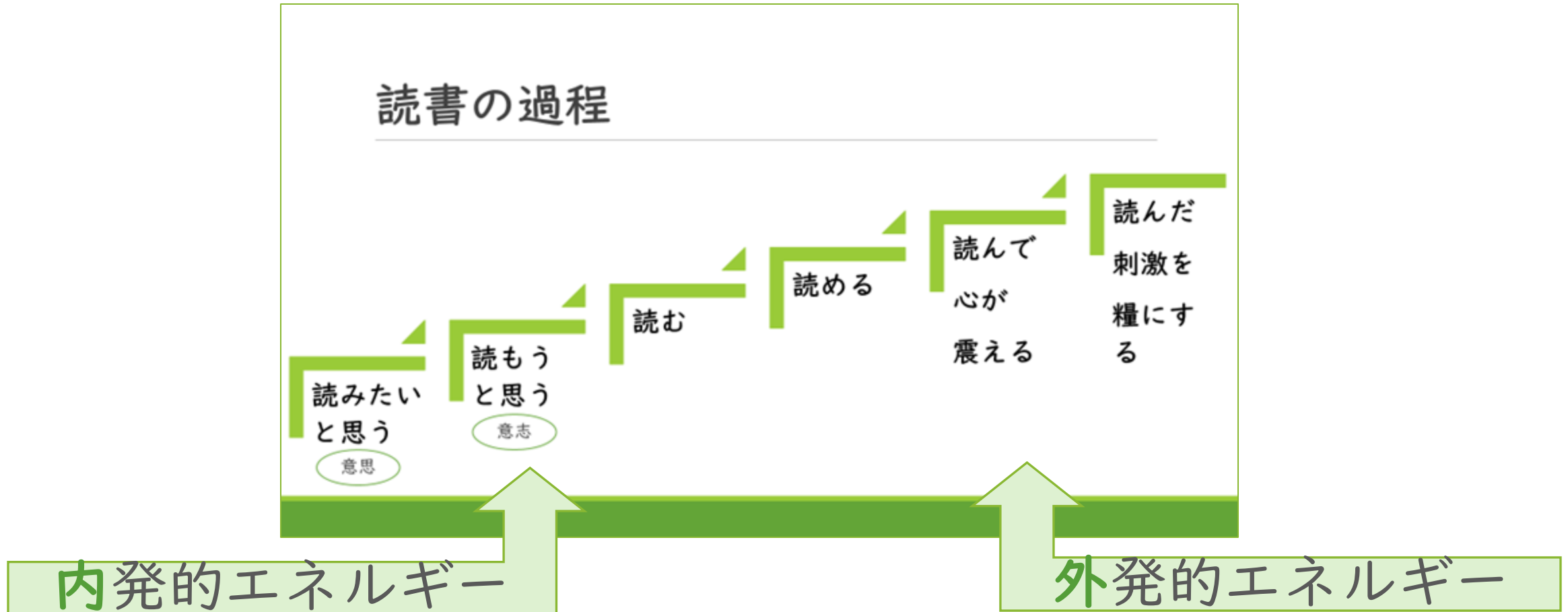
すべての「読書」に対応して、

はじめて「読書」センターと言える

多様な「読書」の捉え



段階を上げるため、各段階のため、 の手立て



読書センターに必要な二つの観点

スキル

環境

学習・情報センターにもこの二つの観点が必要

読書センターとしての読書支援

案内

指導

読書「案内」とは？

利用者が必要とする資料を選択・入手する際に、図書館員が支援をすること。読書案内は利用者からの要求を待つことなく、新着図書や特定のテーマに関する書誌や資料リストなどを作成することで行われる。これらの書誌や資料リストを読書案内と呼ぶこともある。

出典：「図書館情報学用語辞典 第5版」（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会 編 日本図書館情報学会 2013）

読書案内

接触型アプローチと非接触型アプローチ

- ・ブックトーク
- ・読み聞かせ
- ・ビブリオバトル
- ・手渡し
- ・レファレンス
- ・直接選書
- ・カウンターワーク

- ・掲示
- ・テーマ展示
- ・ブックリスト
- ・パスファインダー
- ・図書館だより
- ・図書館HP

様々なバランスの中で選択する

- ・ 目的
- ・ 効果
- ・ 継続性 ⇔ 景色化
- ・ マンパワー
- ・ 場や機会

- ・ プレッシャー
- ・ 信頼関係
- ・ 動と静
- ・ 主体性
- ・ 学校図書館機能横断

読書「指導」とは？

子どもの発達に応じて，文字を読むだけではなく，適切な読書への動機付けを行って，文章を鑑賞し読書能力を高め，それによって自己の生活を充実させ，ひいては子どもの人格を望ましい方向へ導くとともに社会に適用していく能力を身に付けさせること。

出典：「図書館情報学用語辞典 第5版」（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会 編 日本図書館情報学会 2013）

読書のための
「スキル」がなければ

子どもたちは「読めない」

読書のためのスキルのはなし

スキルがないがゆえに起こる 学校図書館トラブル「あるある」

- ・ シリーズ物の途中から借り始める
→ わからん、つまらん → **本嫌い**
- ・ 書影にひかれて借りる
→ 開いてみたら読めない！ → **苦行**
- ・ 読書の捉えが狭い
→ 嗜好と本が結びつかない → **楽しさを味わえない**

読書に必要なスキルの ピックアップと指導

読書に必要なスキル① 読解力

- ・ 識字
- ・ 語彙
- ・ 意味をとらえる

国語科の領域？

読書に必要なスキル② 嗜好把握

- ・ 自分の趣味嗜好の把握
- ・ 無自覚な趣味嗜好への寛容度

読書に必要なスキル③ 選書力

- ・ 本のスペック (表紙、フォント、ページ数など) 判定
- ・ 自分に合った本を選び取る
テクニック (若者で通う、蔵書で、ジャンルで)

読書に必要なスキル④ 意欲

- ・ 集中力
- ・ 継続力
- ・ 知識欲

読書に必要なスキル⑤ 好奇心

- ・ 「次に何が起きるの？」
- ・ 「これってどういうこと？」

読書に必要なスキル②嗜好把握

- 自分の趣味嗜好の**把握**

好きなものがあればそれが糸口になる

- 無自覚な趣味嗜好への**寛容度**

自分が好きな物自体が増える

自分が好きな物の周辺に近い世界があると知ることによって、見る範囲が広がる

読書に必要なスキル③選書力

- 本のスペック（表紙、フォント、ページ数などから）判定
自分が「読める」本なのか判断できる
- 自分に合った本を選び取るテクニック
（著者で追う、叢書で、ジャンルで）
自分の好みに合致する割合が上がる
自分の好みの本にたくさん出会える

なぜこういう借り方をするのか？

1巻

1巻

1巻



本嫌い
読書嫌い
図書館嫌い
になる読書行動を

いかに積ませないか？

子どもたちの読書行動は

それほど単純ではない

読書支援の観点でとらえる、 子どもの姿

- A : 年齢相応以上の内容の本を読む力があり、それを読むことができる子
- B : 年齢相応の内容の本を読む力があり、それを読むことができる子
- B' : // それを読まない、読めない子
- C : 年齢相応の内容の本を読む力がなく、ただし読書への意欲がある子
- C' : // 読書への意欲も低い子
- D : 読み物への関心が薄く、図鑑などへの関心が高い子
- D' : ノンフィクションには興味があるが、フィクションには興味がない子
- E : 読書に没頭できない子
- F : 読書全般への興味関心が薄い子
- F' : 本との接触が絶対量として不足している子

読書という視点でとらえる、 子どもの姿 **A群**

A : 年齢相応以上の内容の本を読む力があり、それを読むことができる子

- ・ 自分で読書傾向を探れる児童が多く、その分ジャンルが固定化、限定化する傾向
→さまざまな分野の本を提示し、興味の幅を広げていけるような案内や指導
- ・ 好きなジャンルの本の新刊情報や出版情報に敏感
→情報面(新刊情報、所蔵情報)での支援
- ・ リクエスト対応などによる支援
- ・ 学校図書館だけでは手に入らないもの、特に一般書への接続の方法を案内し、かつそれを学校図書館で利用できる環境の整備

読書という視点でとらえる、 子どもの姿 **B群**

B : 年齢相応の内容の本を読む力があり、それを読むことができる子
B' : // それを読まない、読めない子

- ・ 選書をするときの目安にできるよう、自分の読書力と読書傾向を一緒に探る
→ 選書の安定化を図り、読書への興味を継続させる。
- ・ B '群に関しては、読まない理由、または読めない理由を探る
- ・ 「読まない」は意志であり、強制することで読書離れが起きないように注意
- ・ 「読めない」＝時間がない、好きな本が学校図書館にない
≠ 能力的な問題ではない可能性も探る
→ サービスを展開すると同時に確実にサービス案内をする
- ・ 読むための意義を見いだせない
→ 確実に楽しさを味わえる本を手渡し、読書の喜びを体験できる機会を提供
楽しむこと＝読書の意義と捉えられるように

読書という視点でとらえる、 子どもの姿から C群

C : 年齢相応の内容の本を読む力がなく、ただし読書への意欲がある子
C' : // 読書への意欲も低い子

- ・現在の読書力相応の本を提示、段階を追って読書力を引き上げる本を提示
- ・極端に読書力の低い児童に対しては、読書力に合う本を借りることがプライドにかかわる場合もある
→本の体裁と内容をよく吟味
- ・自力で読まなくても、読んでもらう、聞かせてもらう、という選択肢があることを提示
- ・C'群については、とにかく「今」楽しいと思える本に出会うことが第一段階
- ・ジャンル、レベルを限定せず提示し、同時に本人の興味を広く探ることで、手渡せる本を見つける「ヒント」を一つでも多く入手

読書という視点でとらえる、 子どもの姿から D群

D : 読み物への関心が薄く、図鑑などへの関心が高い子

D' : ノンフィクションには興味があるが、
フィクションには興味がない子

- ・ 図鑑や写真集などに興味があれば、その深掘りがテキストの読書につながる可能性
- ・ 特に強く関心を持つジャンルを自分で見つけるように指導
- ・ 強く関心のある狭い分野を特定するのも一手
 - そこを切り口にした読み物の案内
- ・ 専門性が高くなるに従い、学校図書館に蔵書がない場合が多くなる
 - 公共図書館の蔵書やレファレンスサービスを利用する
 - 情報センターとしてのサービスをまず提供し、本を探せることを知らせる
- ・ D' 群については、読書案内する側が必ず読書の捉えを広く持ち、嗜好に合わせる
 - 同時に無自覚な嗜好の認知につながる可能性を探る

読書という視点でとらえる、 子どもの姿から E群

E : 読書に没頭できない子

- ・あらゆる可能性を探るためにまずは信頼関係、行動観察
- ・特性に合わせた支援
- ・覚知されていない読書へのバリア（ディスレクシア、LDなど）
- ・人間関係や適応などによる「場」への不安に対する場の担保
- ・「読めないときは、読まなくてもいい」

読書という視点でとらえる、 子どもの姿から **F群**

F : 読書全般への興味関心が薄い子

F' : 本との接触が絶対量として不足している子

- ・ 強制的な読書、本の貸出が逆効果になる場合も→本とのかかわりの中で一番負担が少ないものを探り、そこからアプローチ
- ・ 図書館滞在の快適性をまず優先、図書館へ来ること、本を手にすることへの嫌悪感を増幅させない
- ・ F' 群については、身近に本と接触できるポイントを設定
- ・ 場、機会、時間等の意識的な設定→生活の中に読書を存在させる
- ・ 本がない環境を後ろめたさにつなげないように注意
- ・ としょかんだより等を通じた家庭への支援
- ・ ブックマルシェ

どんな手立でも打てるスキルを実装する

読書に必要なスキルの ピックアップと指導

読書に必要なスキル① 読解力

- ・ 語彙
- ・ 語彙
- ・ 意味をとらえる

国語科の領域？

読書に必要なスキル② 嗜好把握

- ・ 自分の趣味嗜好の把握
- ・ 無自覚な趣味嗜好への寛容度

読書に必要なスキル③ 読書力

- ・ 本のスペック (長さ、ジャンル、内容) 判定
- ・ 自分に合った本を選び取る

テクニック (速読で読み、書き取り、リマインド)

読書に必要なスキル④ 意欲

- ・ 集中力
- ・ 継続力
- ・ 知識欲

読書に必要なスキル⑤ 好奇心

- ・ 「次に何が起きるの？」
- ・ 「これってどういうこと？」

読書支援の観点でとらえる、 子どもの姿

- A : 年齢相応以上の内容の本を読む力があり、それを読むことができる子
- B : 年齢相応の内容の本を読む力があり、それを読むことができる子
- B' : // それを読まない、読めない子
- C : 年齢相応の内容の本を読む力がなく、ただし読書への意欲がある子
- C' : // 読書への意欲も低い子
- D : 読み物への関心が薄く、図鑑などへの関心が高い子
- D' : ノンフィクションには興味があるが、フィクションには興味がない子
- E : 読書に没頭できない子
- F : 読書全般への興味関心が薄い子
- F' : 本との接触が絶対量として不足している子

「実践事例」は、
スキル獲得のために存在する

GIGAスクール時代の読書センター

どちらもあること・選ぶのは利用者

電子書籍も日常的に読む「本」



「本」 （デジタル） を紹介する姿



「デジとしょ信州」

2022年8月5日稼働

デジとしょ信州



令和6年度 本格始動！



伊勢市電子図書館

スマホ・タブレット・PCから

電子書籍

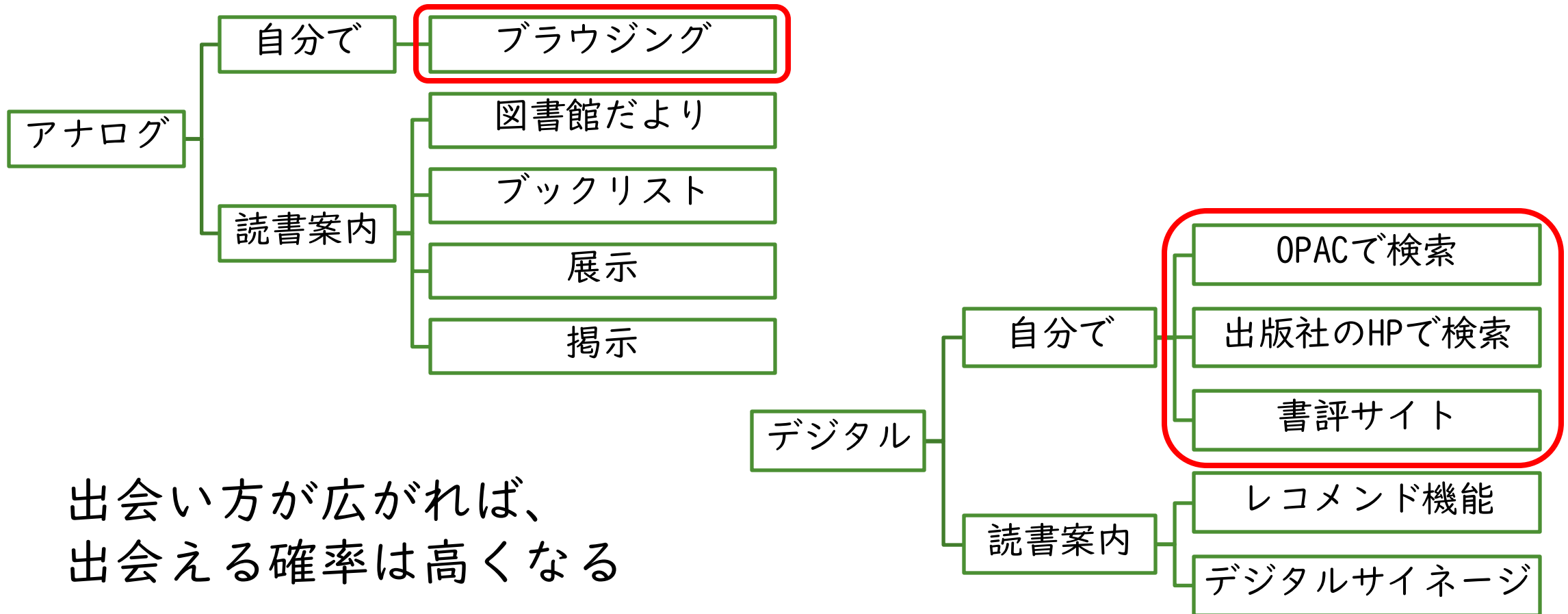
1,000冊

読み放題

県内初

市内全小中学校の
児童生徒・教職員
利用可能

本との出会い方を広げる



当たり前のことだけれど

読書の最初のハードルは
読むものを手元に準備すること

読めるもの、読むものがなかったら
読めない

学校図書館しか使えない子の存在

- ・ 公共図書館がない
- ・ 公共図書館の存在を知らない
- ・ 学区外へは一人ではいけない
- ・ 徒歩で通える距離にない

読める

→ 学校図書館以外に本と接触できない

どうしたら「誰もが」読めるのか？①

たとえば、子どもたちの
「特性」に合わせて考える

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」
(文部科学省2022|2|3)

「発達障害の可能性がある小中学生は学級に8.8%文科省調査」
(11人に1人程度) (NHKニュース2022|2|3)

「読書」へのハードルを低く

「読書バリアフリー法」

令和元年6月21日議員立法で成立

正式名称は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」



誰もが読書ができる社会を目指して～読書のカタチを選べる「読書バリアフリー法」～（啓発用リーフレット）

視覚障害等に照準を合わせた場合に

学校図書館が準備できるもの（資料）

- ・ 大活字本
- ・ 点字図書
- ・ LLブック
- ・ 触覚認知の本（布の本、さわる本）
- ・ DAISY（音声DAISY、マルチメディアDAISY）
- ・ 電子書籍



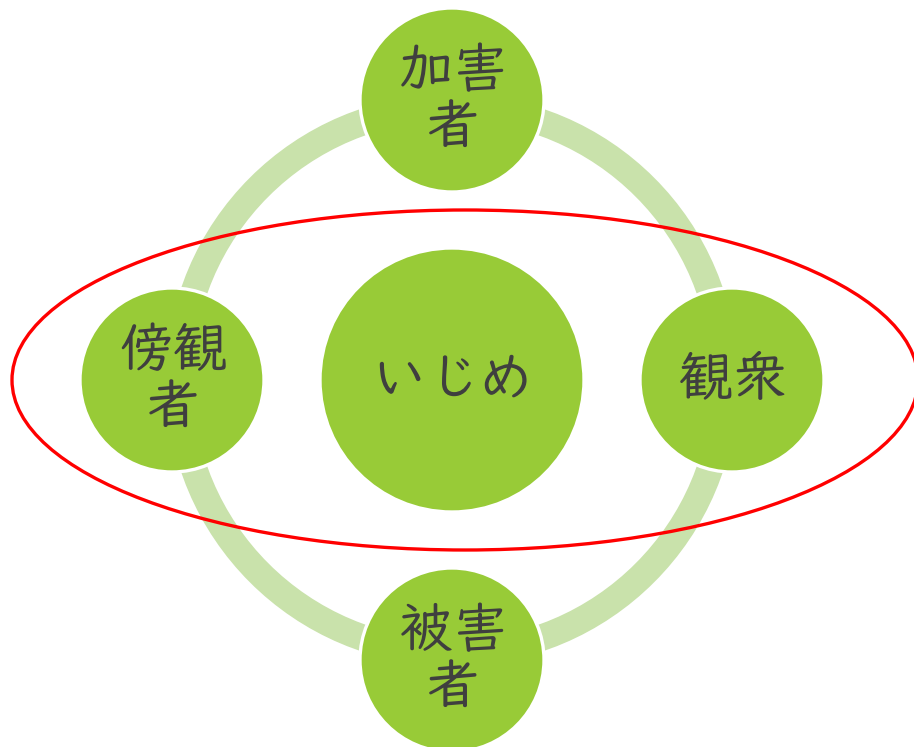
「デジタルだったら、読める」を どうするのか？



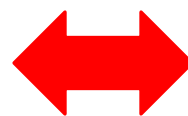
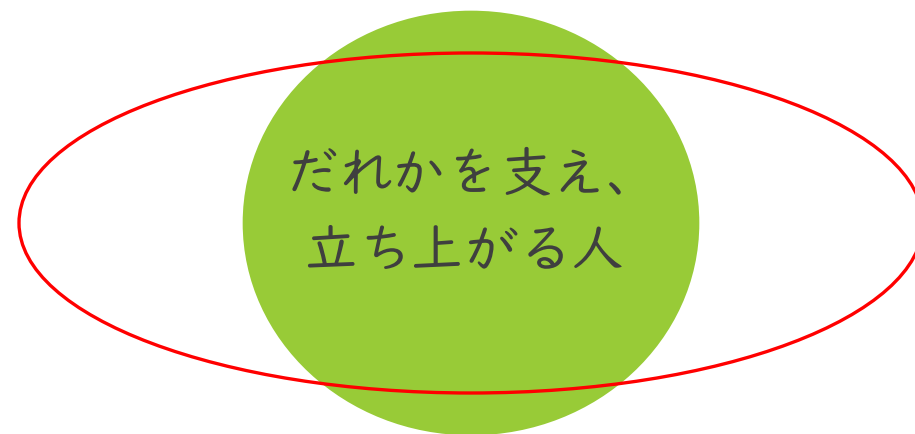
バイスタンダー と アッピスタンダー

バイスタンダーと アップスタンダーの概念

バイスタンダー



アップスタンダー



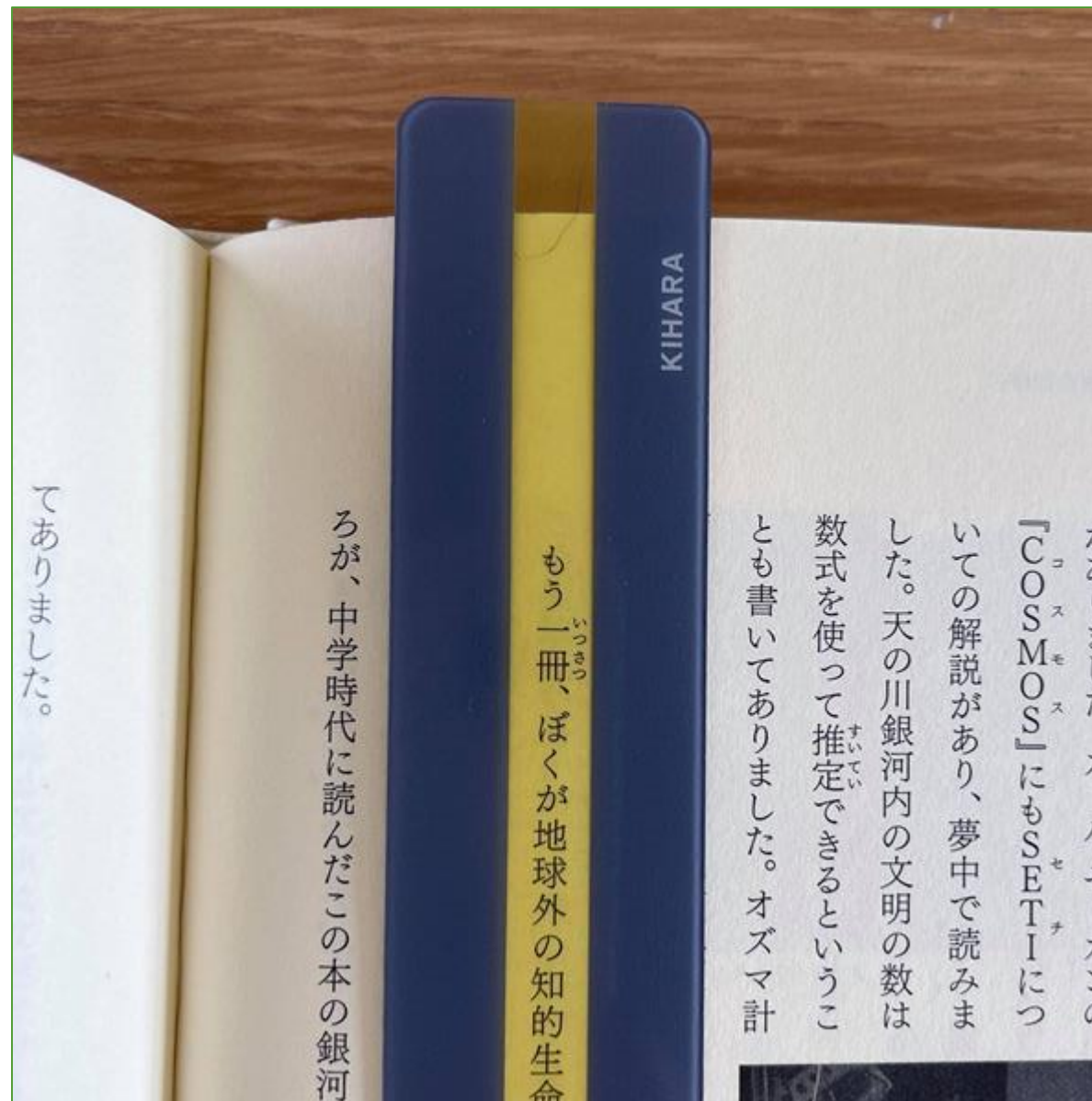
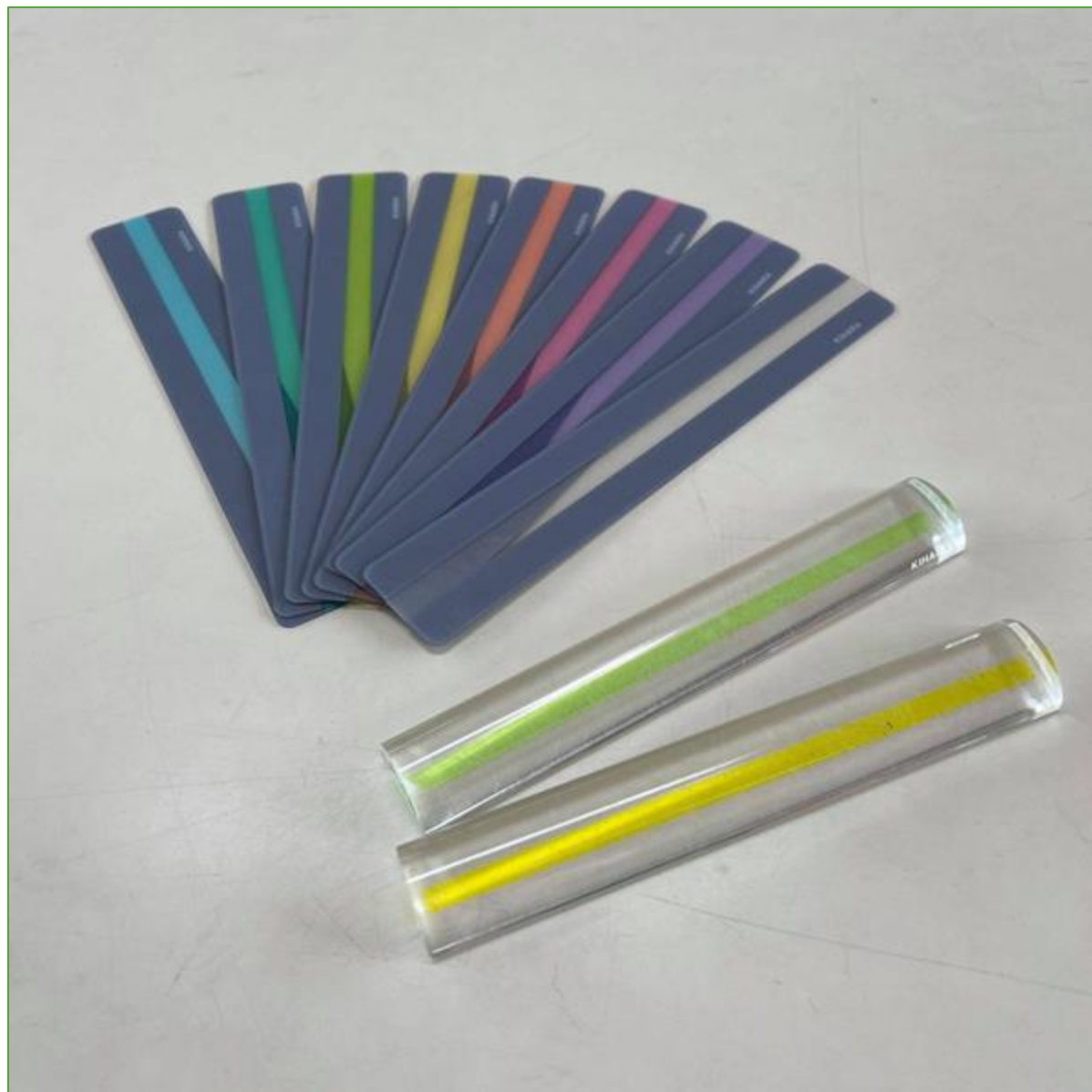
文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」(2018) より作図

意識的に
アップスタンダーとして
行動することが
未来を生きる子どもたちの
学びを守る

視覚障害等に照準を合わせた場合に

学校図書館が準備できるもの（サービス）

- ・ 読書補助具、機器
- ・ 対面朗読
- ・ サピエ図書館への接続
- ・ 国立国会図書館への接続



どうしたら「誰もが」読めるのか？②

たとえば一般書の提供の担保

物理的に所蔵できないのなら、
提供方法＝サービスで担保する

「誰もが読める」は特性だけの話ではない

読書センターのスタンダード

読書スキルを授け

(読書指導)

そのスキルを発揮できる環境がある

(読書案内等)

何でも読めて、だれにとっても

情報の入り口となりうる場や機会

機能している学校図書館の姿

学習センター編

学習センターあるある

- ・ 学校図書館は読書センター機能しか
認知されていない問題
- ・ 「本」しか、調べるツールとして認知されていない
- ・ 学習センターに対するニーズがない問題

そもそもの学習センターの話

迅速で
確実な内容で
十分な分量の

資料・情報を提供する

教育活動に必要な
資料・情報は
学校図書館が準備する

提供資料（もしくは情報）のレベルと コレクション

上級 どんな形態でも情報を抜き出せる層

- もはや一般書のほうが、無駄に情報に制限をかけずに提供できることもある

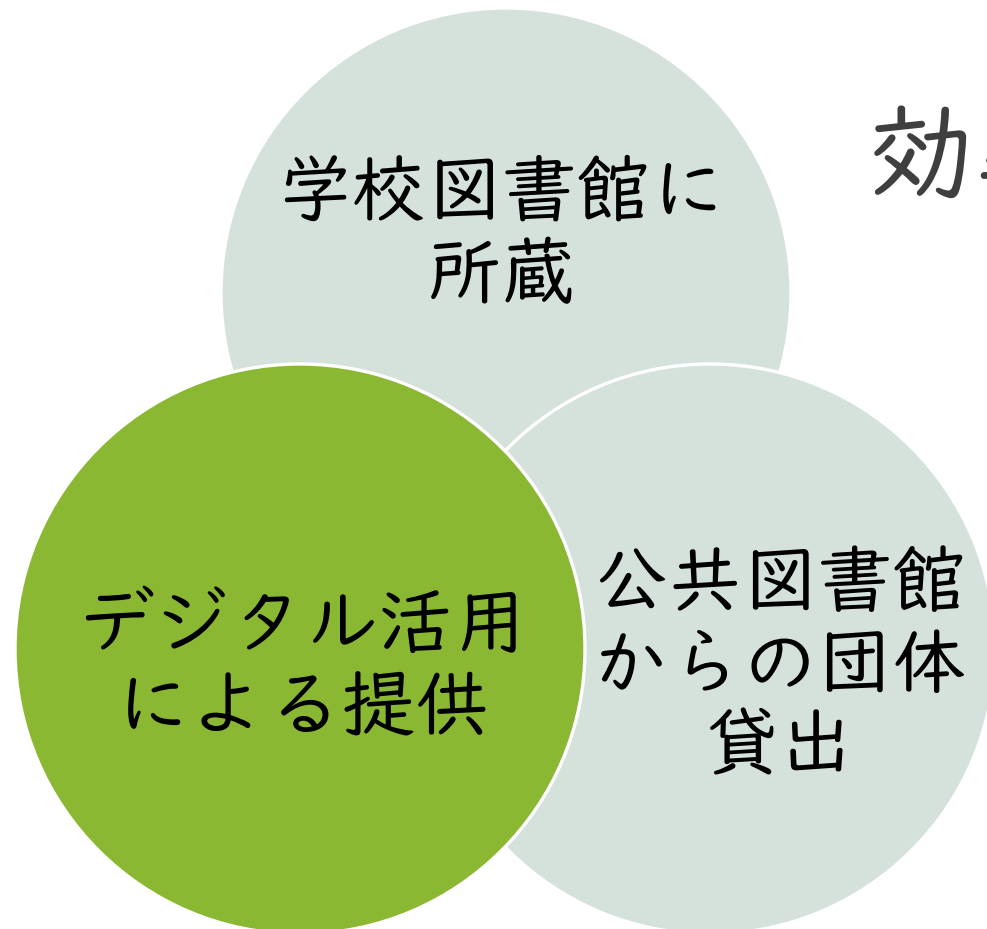
中級 ある程度学習に沿った構成であれば、情報を抜き出せる層

- 教科書や支持そのままのキーワードやレイアウトがなくても、調査そのものに大きなストレスがないづくりの学習資料

初級 教科書や指示とほぼ同じ体裁でなければ情報を抜き出すのが難しい層

- キーワードやレイアウトが教科書や支持から大きく逸脱しておらず、ストレスなく活動ができる学習資料

提供資料（もしくは情報）のレベルと コレクション



効率的なコレクション構築

- ・ 中長期**計画**
- ・ 公共図書館との**分担収集**
- ・ デジタルデータでの**代替**

必要な資料・情報の「情報」を

授業者と図書館で

(公共図書館も・学校図書館も)

共有することが重要

学校図書館は
こんな準備をしています

[illegible][illegible]

選書・手配
提供・活用

資料・情報提供の手順①

あらかじめ全学年、全教科の調べ学習単元および
資料提供可能単元をピックアップ

- ・何年生の、いつ頃の、どの教科、どの単元なのか

ポイント

- ・年間指導計画、教科書会社のHP、教科書、指導書などから把握できる

アイデア

- ・教科書改訂のタイミングで図書館用の年間計画を作ればしばらく使える

資料・情報提供の手順②

教科書と指導書から、単元の流れを把握

- ・ねらいは何か？
- ・どういう活動なのか？
(知るだけか？書き出すのか？比較するのか？)
- ・どうアウトプットするのか？

ポイント

- ・まずは自力でしっかり調査する
＝授業者の負担軽減が利用につながる

ヒント

- ・指導書は授業者に借りる
- ・教科書は図書館の公務用として購入

例えば社会科の学習のながれ

つかむ

教科書のトピックを中心に、その周辺も含めた幅広いトピックから、自分の課題をつかむ

しらべる

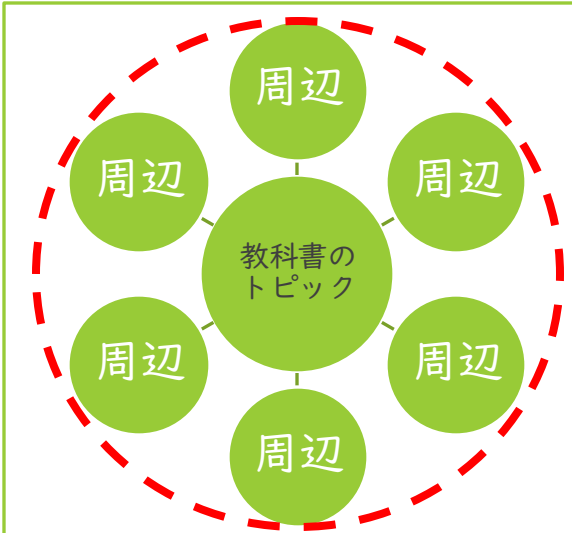
個人の課題をテーマに設定し、そこを深く知る

まとめる

学習を振り返り、その過程をまとめる・アウトプットする

例えば社会科の学習のながれに対する 資料・情報提供=〇

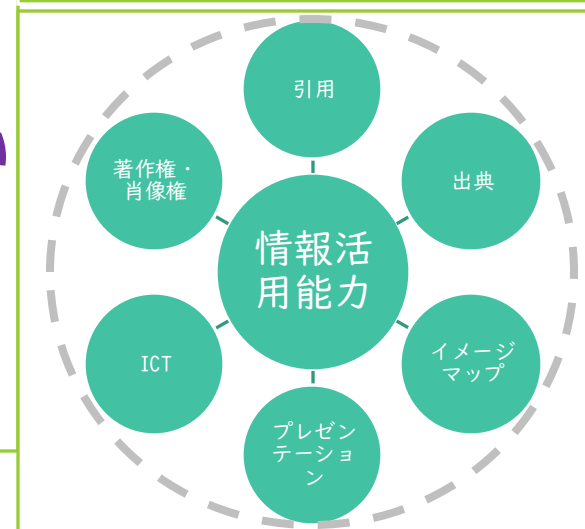
つかむ



しらべる



まとめる



資料・情報提供の手順③

授業の進め方についてヒアリング

- ・ 資料、情報活用のタイミング
- ・ 教材研究用資料の必要があるか？
- ・ 個人追求（個人でのテーマ設定）の有無
（テーマが出揃う時期、共有方法やタイミング）

ポイント

- ・ 短時間で、確実に記録ができるように

ヒント

- ・ ICT活用
- ・ 双方の負担軽減と記録の一石二鳥

資料・情報提供の手順④

指導内容に合わせた

「提供資料に**含まれるべき情報**」の把握

- ・この本ではなく、こういう内容の本という情報が必要
- ・何が書かれていなければいけないのか？を把握する
- ・必要な情報量、ボリューム

ポイント

- ・×「車の本」
- 「車の●●が書かれている本」
- ・隣接キーワードに該当する資料も必要

ヒント

- ・朱書きの情報がかなり有効

資料・情報提供の手順⑤

必要資料の所蔵状況、出版状況の調査

- ・何を提供できるか？
- ・何が足りないのか？
- ・どう手配するか？
- ・いつまでに手配できるのか？

ポイント

- ・いつからいつまで、何冊必要なのか？

考慮の上、手配

- ・デジタル情報も必ずチェック

ヒント

- ・公共図書館の団体貸出を活用
- ・その場合は、手順④の情報を確実に共有

存分に使ってください！

使うことで、
使われることで、
学校図書館活用のレベルが上がります

業務へのAI活用

～的確な指示で、賢いお手伝いさんになる～

Gemini (GoogleのAI)に、こんなプロンプトを入力する

「和の文化」に関連する、もしくは
「和の文化」から連想するキーワード
を挙げてください。

AIが出してくれる情報の一例

- ・ 具体的なキーワード
- ・ キーワードを深掘りする視点
- ・ キーワードの組み合わせで広がる世界
- ・ 「和の文化」を語る上でのポイント
- ・ より詳しい情報を得たい場合
 といった情報が出てくる

たくさんの情報が出てくる

～思いつかなかったものを知ることができる価値～

自然との共生：四季、花、月、茶道、花道、盆栽、庭

伝統文化：着物、茶道、華道、書道、能楽、歌舞伎、香道、仏教、神道、神社、仏閣

精神性：和（わ）、わびさび、おもてなし、敬意、感謝、静寂、調和、美意識

生活様式：座禅、風呂、畳、障子、襖、懐石料理、寿司、日本酒、風呂敷

工芸品：陶器、漆器、染め物、木工品、和紙

建築：和室、寺社建築、庭園

その他：祭り、節句、歳時記、年中行事、郷土料理

資料・情報提供の手順⑥

提供方法の検討

- ・ どう提供したら使いやすいか？
（ブックトラック？コンテナ？付箋等による誘導？）
- ・ どこに提供するか？
（教室に運ぶ？来館してもらう？）
- ・ 資料や情報だけで良いのか？
（授業へ支援、POPなどによる視認性）
- ・ アウトプットも考慮

ポイント

- ・ 使いやすさを優先するのか？使い方を学ばせることも兼ねるのか？によって提供方法も変える

- ・ デジタル特有の提供方法を最大限に活用

アイデア

- ・ 学習資料の提供期間が過ぎたら、成果物の展示と一緒に資料も展示する

ねらいに合わせた「使い勝手」



GIGAスクール時代の学習センター

大前提として
デジタルを
「前向きに活用」する
という姿勢

デジタルデータの優位性

(⇔もちろんアナログの優位性もある)

もはや「デジタル資料を扱わない」という選択はない

「本」では提供ができないもの

- ・ 紙媒体の発行がない

電子ジャーナル

更新のあるサイトの情報

- ・ 紙媒体では入手困難

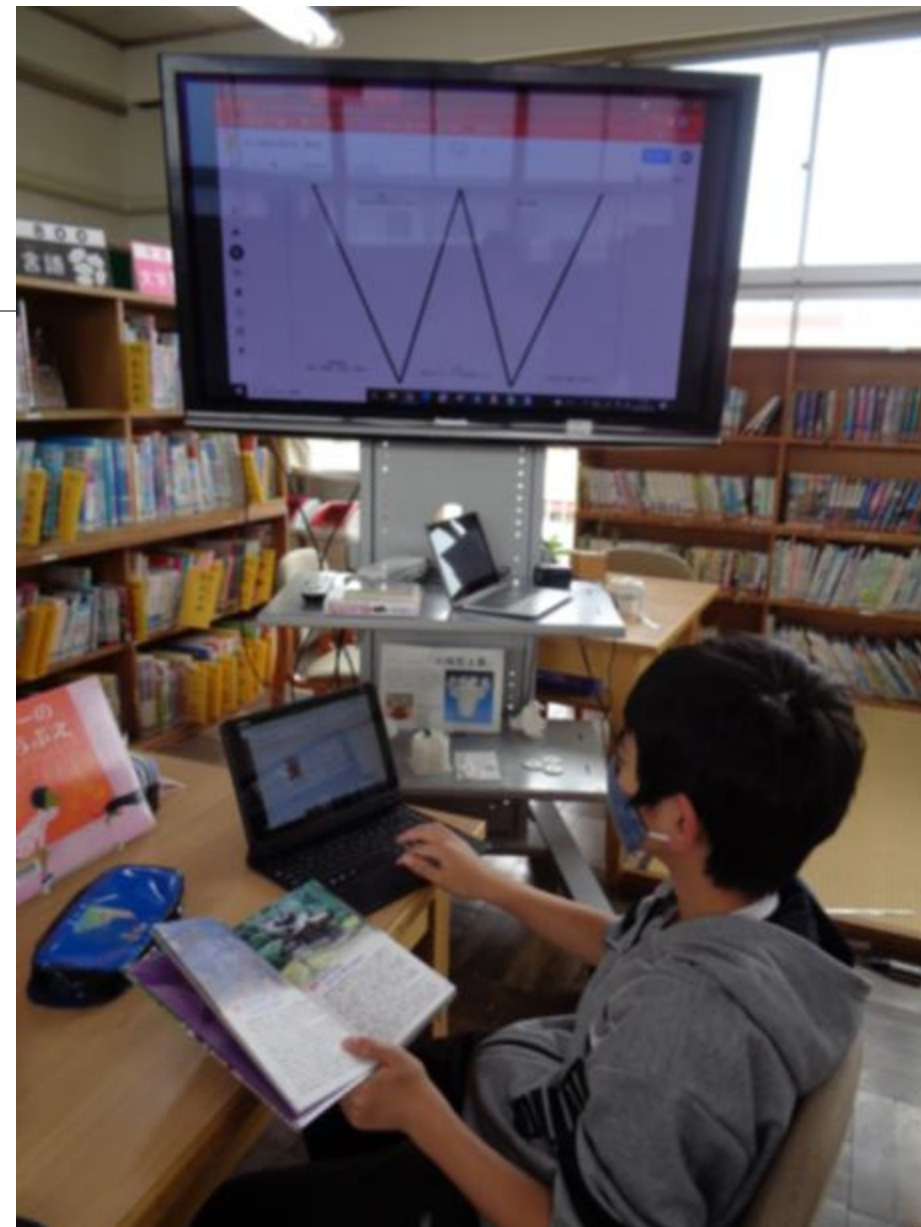
発行部数が少ない郷土資料

すでに絶版

すでに販売終了（雑誌）

配布期間終了（パンフレット・チラシ）

紙とデジタルは併用



「本」では提供できないインパクト

- ・ 音声データ

文字情報からだと思像するものが違う

- ・ 動画

百聞は一見にしかず

動画や音声データの効果



動画を見ながら
折り紙を折る

デジタル特有の提供方法

- ・ リンク情報

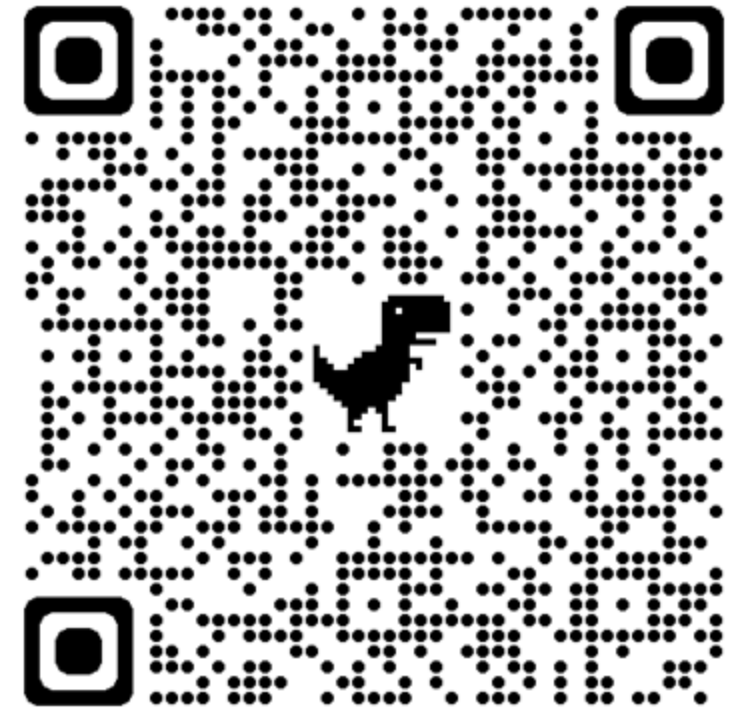
URL

QRコード

- ・ 共有

クラウド

デジタル資料の提供方法を工夫して、 紙の資料と同レベルで日常的に



無料で入手できる

- ・ 公的機関提供のデジタルデータ

データベース

デジタルコレクション



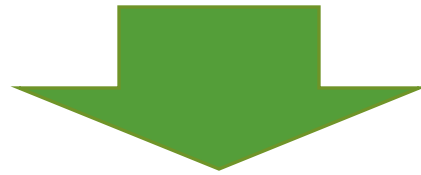
たとえば「ジャパンサーチ」

The screenshot shows the JAPAN SEARCH homepage. At the top, there's a search bar with the text "検索キーワードを入力" and a magnifying glass icon. To the right of the search bar is a link "最初のノート". Below the search bar is a large banner image showing a traditional Japanese woodblock print of people walking. On the left side of the banner, there's a text box titled "年中行事絵巻" (Annual Festival Picture Scroll) with a description of the scroll and its contents. Below the banner, the JAPAN SEARCH logo is prominently displayed, followed by the tagline "日本のデジタルアーカイブを探そう" (Let's find Japan's digital archives). Below the tagline are five red buttons with white text: "Q 有司" (Q. Curator), "Q 徳利" (Q. Pot), "Q こけし" (Q. Kokeshi), "Q 雛子" (Q. Dolls), and "Q 御所人形" (Q. Imperial Palace Dolls). Below these buttons are six main navigation tiles, each with a title, a representative image, and a brief description:

- 教育・商用利用可能を検索** (Search for educational/commercial use): An illustration of a person reading a book. Description: "教育や商用目的で素材として自由に利用できる資料を検索します" (Search for materials that can be used freely for educational or commercial purposes).
- オンライン資料の検索** (Search for online materials): A computer monitor displaying a landscape image. Description: "Web上で閲覧できる資料に絞って検索します" (Search for materials that can be viewed on the web).
- ギャラリー** (Gallery): A circular collage of various images. Description: "連携コンテンツを様々な切り口で紹介します" (Introduce linked content from various perspectives).
- 利用ガイド** (Usage Guide): A yellow and black geometric design. Description: "ジャパンサーチの使い方をご案内します" (Guide you on how to use Japan Search).
- 利活用事例** (Use Cases): A book cover titled "USE CASE". Description: "ジャパンサーチを使った授業やイベントなど、様々な場面の活用事例を紹介します" (Introduce use cases for Japan Search in various fields such as lessons and events).
- 連携機関一覧** (List of Partner Institutions): A grid of small logos and images. Description: "ジャパンサーチと連携している機関の一覧です" (List of institutions that are linked with Japan Search).

デジタルデータを「**作って**」 準備・提供する

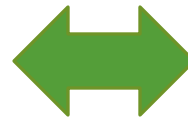
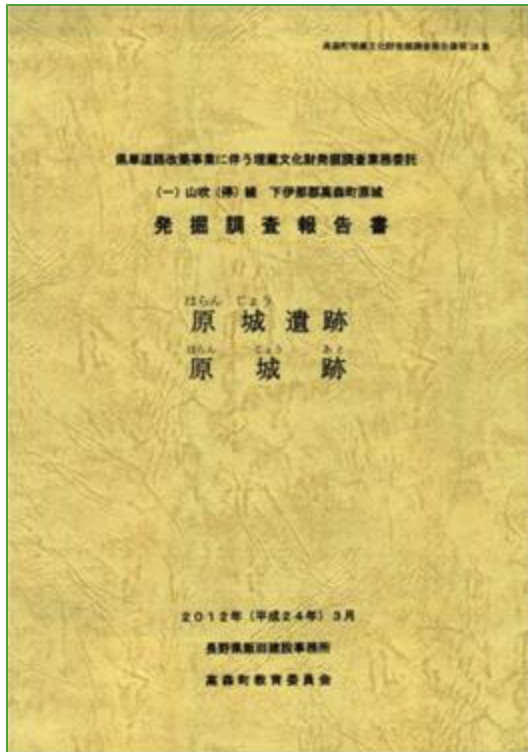
ネット上に「ない」情報は、
その存在も「**認識**されない」



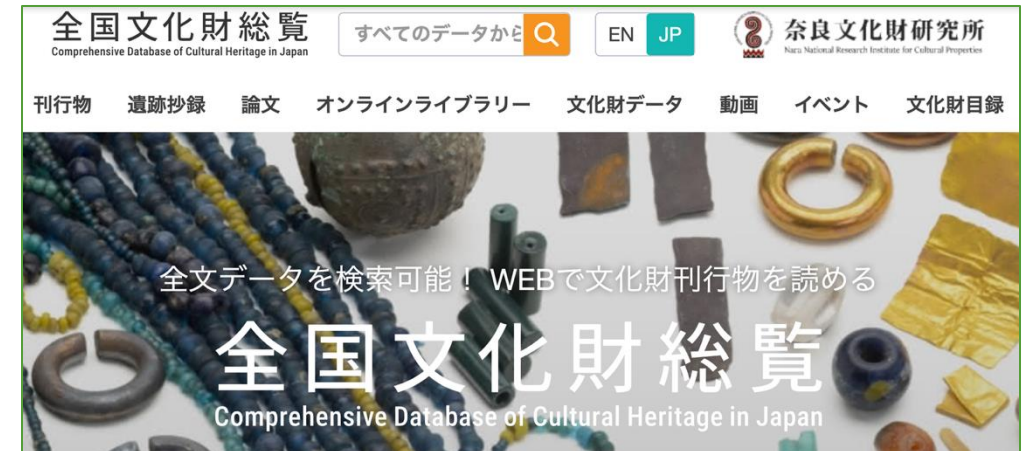
「知らせたい」もの、
「見せたい」ものを、
きちんと「**存在**させる」

既存のアナログ資料は デジタル資料で再会

アナログデータ



デジタルデータ



「全国文化財総覧」

ないなら作る！①

郷土資料のデジタルデータ



武陵地一号古墳
3Dデータ計測

「本」では提供できない横断性

- ・ オンライン百科事典

関連項目にどんどん飛んでいける

ないなら作る！②

高森町のウィキペディアの項目



高森町で出土した富本銭

ないなら作る！③

「武陵地古墳群」の項目



「武陵地古墳群」

地域の情報は

地域で作成・提供する

ウィキペディアタウン高森



新規立項

「竹ノ内家住宅」
「下市田学校」
「高森南小学校」



タイパ・コスパ？新しい価値？

- ・ オンライン会議システム

距離のハードルがなくなる

- ・ 動画配信

リアルタイムでなくても情報につなげることができる
コンテンツ作成という創作活動→映像「資料」になる

人・コミュニティも「情報」





中学校図書委員会&放送委員会

希望職種選定、質問準備、インタビュー
編集、放送、掲示

高森町子ども読書支援センター

出演交渉、日程調整、依頼文書





チャンネル

再生リストの動画

動画

- 2学期おすすめ本紹介⑤
説明を追加
2:04
- 2学期おすすめ本紹介④
説明を追加
2:00
- 2学期おすすめ本の紹介③
説明を追加
1:49
- 2学期おすすめ本紹介②
説明を追加
2:24
- 2学期おすすめ本紹介①
説明を追加
2:32



アナログもデジタルも

アナログデータ

メリット

- 保存性: 条件がよければ長期保存が可能
- 情報量: 情報量が多く、豊かな表現が可能。
- 耐久性: 災害や停電などの影響を受けにくい。
- 視認性: 目に優しく長時間見やすい。
- 操作性: 直感的に操作できる。

デメリット

- 保存性: 劣化や損傷しやすい。
- 検索性: 情報の検索が困難。
- 加工性: 編集や修正が難しい。
- 共有性: 複製や共有が困難。
- 複製性: 複製するたびに、劣化していく。
- コスト: 小ロット生産においては、デジタルよりもコストが高い。

デジタルデータ

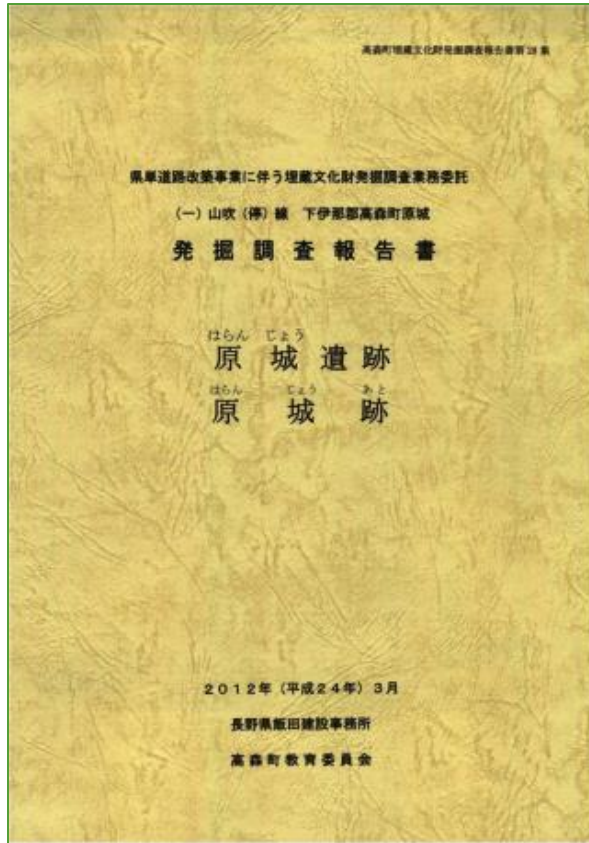
メリット

- 保存性: 劣化や損傷に強く、コンパクトに保存できる。
- 検索性: データベース化により、必要な情報を効率的に検索できる。
- 加工性: 編集や修正が容易にできる。
- 共有性: ネットワークを通じて簡単に共有できる。
- 複製性: 何度でも複製できる。
- コスト: 大量生産においては、アナログよりもコストが低い。

デメリット

- 情報量: デジタル化された情報が限定されている
- 再現性: 原本がアナログの場合、完全に同じものを再現するのは難しい。
- 脆弱性: 改ざんしやすい。
- 視認性: 目の疲労や健康への影響が懸念される。
- 操作性: 操作スキルが必要。
- 利便性: デバイスがないと情報を確認できない

ところで、、、



←これを子どもたちに
興味を持ってもらう
読んでもらう
使ってもらう

学校図書館の仕事

地域資料・文化財情報の教材化は 敬遠されがち

地域学習
重要なのに！

- ①一般書しかない（＝読めない）
- ②地域文化財情報の所在が分かりにくい
- ③子どもたちが興味を持ちにくい
- ④発行部数が少なく授業に必要な
十分な分量が確保できない
→とにかく使いにくい！

課題解決①

「一般書しかない（＝読めない）」

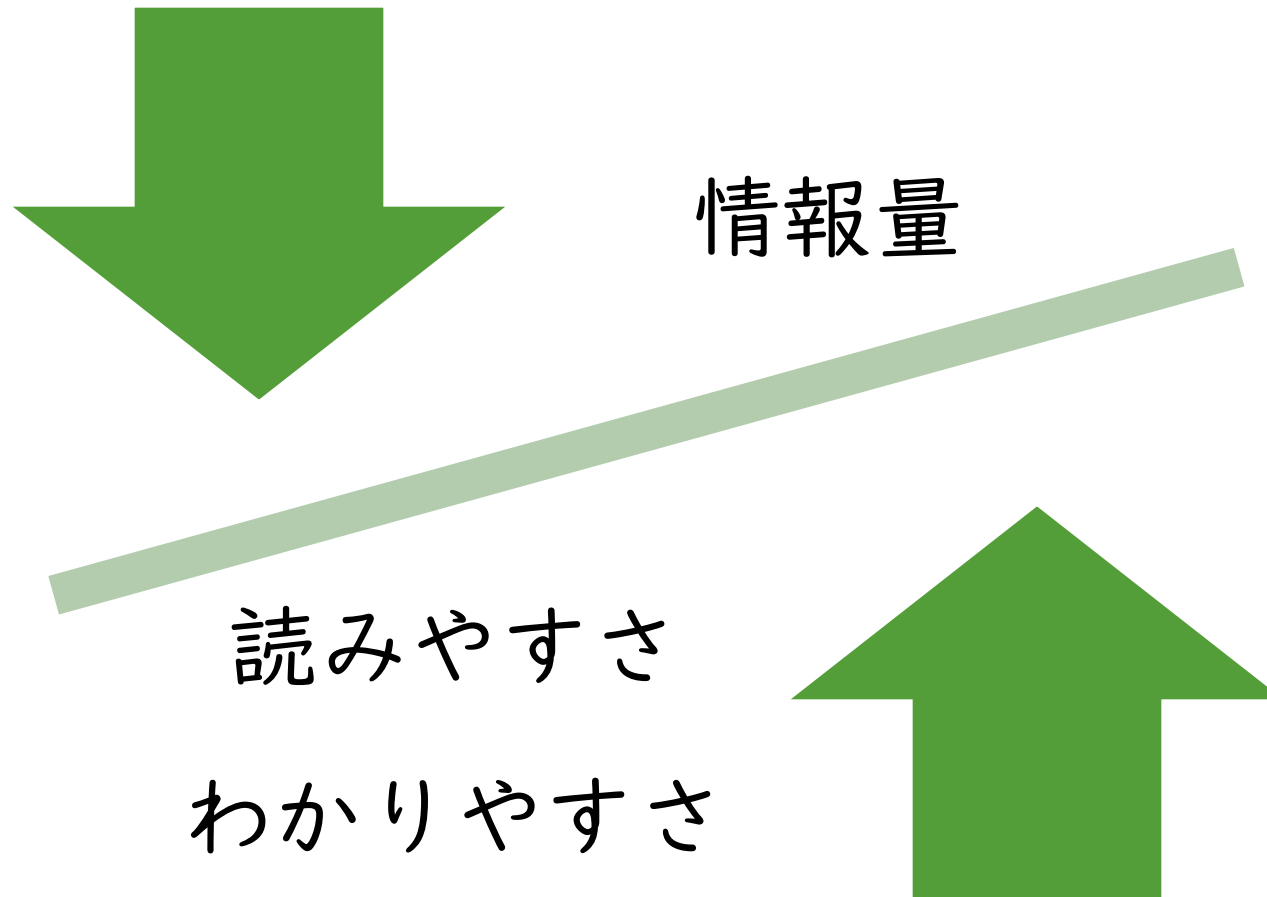
・読めるものを使う

→例えば、児童用に編集されたものを使う

ただし！ 情報が取捨選択されてしまう **リスク** がある
＝好奇心を発揮するポイントをスポイルする可能性

提供資料（もしくは情報）のレベルとコレクション	
上級	どんな形態でも情報を抜き出せる層 ・もはや一般書のほうが、原典に情報に制限をかけずに提供できることもある
中級	ある程度学習に沿った構成であれば、情報を抜き出せる層 ・教科書や支持そのまのキーワードやレイアウトがなくても、調査そのものに大きなストレスがないづくりの学習資料
初級	教科書や指示とほぼ同じ体裁でなければ情報を抜き出すのが難しい層 ・キーワードやレイアウトが教科書や支持から大きく逸脱しておらず、ストレスなく活動ができる学習資料

児童用に編集するということ



課題解決①

「一般書しかない（＝読めない）」

・一般書でも読む

→ わからない用語を調べられるスキル

→ わからない用語をスルーするスキル

→ 一般書への抵抗感を減らす

提供資料（もしくは情報）のレベルと コレクション

上級 どんな形態でも情報を抜き出せる層

・もはや一般書のほうが文献に情報に制限をかけずに提供できることもある

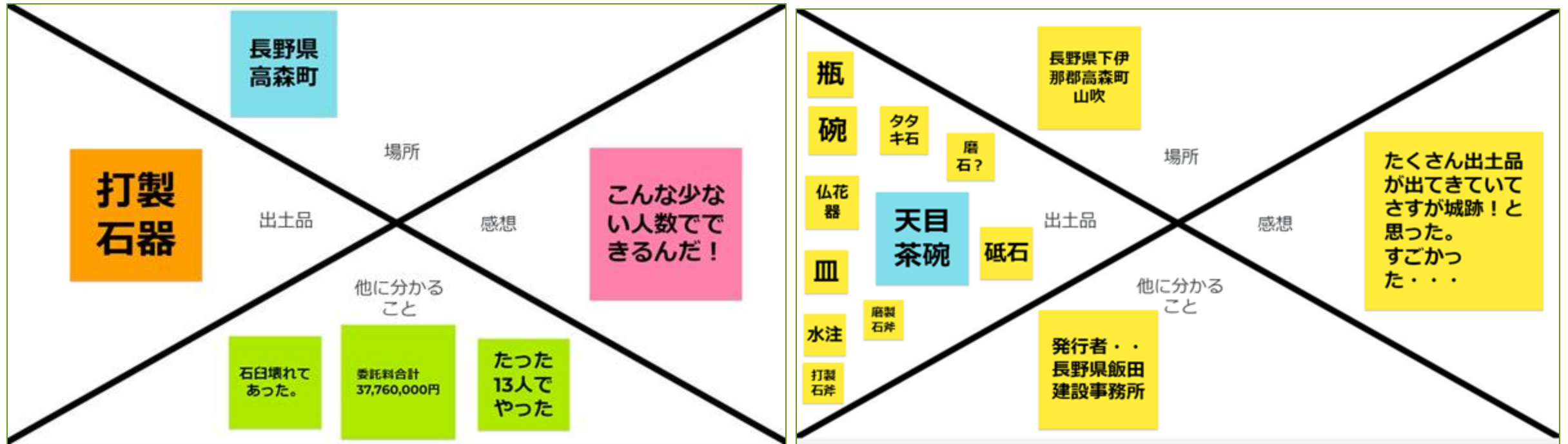
中級 ある程度学習に沿った構成であれば、情報を抜き出せる層

・教科書や支持そのまのキーワードやレイアウトがなくても、調査そのものに大きなストレスがないづくりの学習資料

初級 教科書や指示とほぼ同じ体裁でなければ情報を抜き出すのが難しい層

・キーワードやレイアウトが教科書や支持から大きく逸脱しておらず、ストレスなく活動ができる学習資料

一般書を「読んでみる」WS



デジタル化された地域資料がある（手元の端末で見ることができる）
＝紙の本が一人一冊手元にあるのと同じ状況→地域資料の活用機会が広がる

課題解決②

「地域の文化財情報の所在が分かりにくい」

- ・ **ある、入手できる**ことを知らせる
 - 学校図書館学習センター機能の向上
- ・ 情報の**見える化**
 - ex) メタデータの整理
 - デジタル化、データベース化
 - 教科単元との紐づけ、パスファインダー作成
- ・ **自分で**見つけられる
 - 情報リテラシー育成（教員も子どもたちも）

課題解決③

「子どもたちが興味を持ちにくい」



そうかな？

教員

専門職

「魅力」を見せる・魅せるプロ



田中芳男の胸像@飯田市美術博物館

教員

専門職

「魅力」を見せる・魅せるプロ



(修学旅行で見学する)
ここにもう一体
あるらしい！

国立科学博物館

教員

専門職

「魅力」を見せる・魅せるプロ

国立科学博物館



出典：ココシル上野、「【国立科学博物館】 企画展「没後100年記念 田中芳男 ―日本の博物館を築いた男―」 内覧会レポート」

課題解決④

「分量が確保できない」

基本的に地域学習用の地域資料は
発行部数が少ない

→増やすには？

「デジとしょ信州」

2022年8月5日稼働

デジとしょ信州



著作権法第35条の範囲での複製

- ・ コピー
- ・ 端末で撮影

参考 「著作権法第35条運用指針」



学習センターのスタンダード

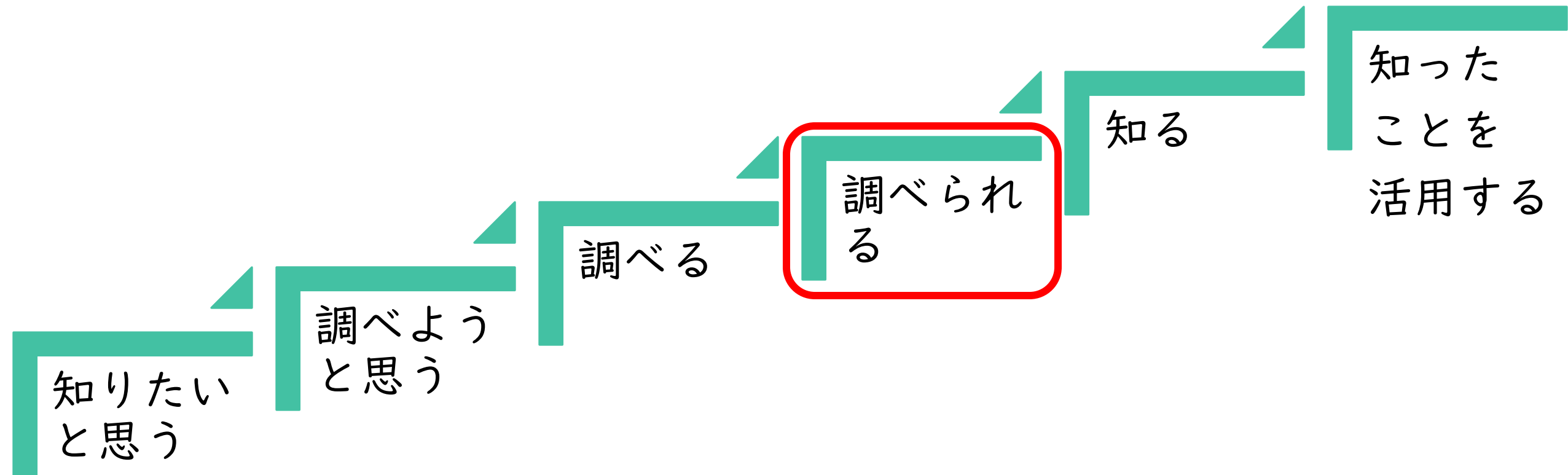
なんでも調べられる、
上質で、十分な量の、
ありとあらゆる媒体による
資料と情報が
迅速に、いつでも、
入手できる環境

機能している学校図書館の姿 情報センター編

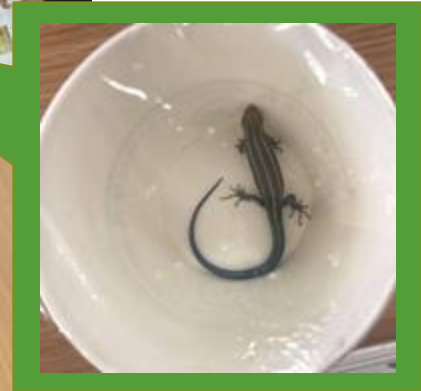
～GIGAスクールによる各機能のレベルアップ～

そもそも情報センターの話

知りたいことを調べ、知る 子どもたちとは？



アナログでもデジタルでも通用する 基本的な調査スキル

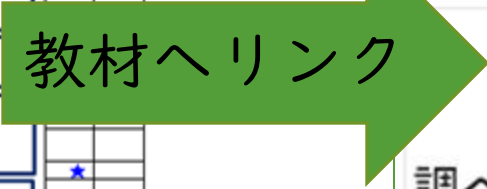


1年生から「調べる」ためのスキルを！



情報活用能力年間指導計画

3年生		情報センター		
巻	月	単元名	教材番号	教材タイトルとリンク
上	4	よく聞いて、じこしょうかい とさん つづけてみよう さつづきの販売 図書館だんていだん 国語辞典を使おう 漢字の広場① おのくらし	①②	①本の分類とならべ方
		漢字の広場② もっと知りたい、友だちのこと 「コラム」きちんとつたえるために		②本のひみつ
		言葉で遊ぼう こまをまわす 「じょうほう」全体と中心 おもちゃをこめて「楽しんでください」		③（2年）「類語辞典」
	5	漢字の広場③ まじいのかき 俳句を楽しもう こそあど言葉を使いこなそう 「じょうほう」引用するとき	④⑤	④「引用」とは？
		仕事のかふう、見つけたよ 「コラム」符号など		⑤出典・奥付
		漢字の広場④ はじめて知ったことを知らせよう 無くなったきょうりゅうの謎		⑥シンキングツールとは？
	6	わたしとか鳥とすと 夕日がせなかをおしてくる 山小屋で三日間すごすなら ホステアを説もう へんとつくり ローマ字	⑦⑧⑨	⑦イメージマップを 使ってみよう
		ちいちゃんのかげおくり 装飾語を使って書こう 秋のくらし はんで意見をまとめよう 漢字の広場⑤ すがたをかえる大団 「じょうほう」科学読み物での調べ方 食べ物のひみつを教えます ことわざ・故事成語		⑧メモの取り方（上級編）
		漢字の意味 和歌を楽しもう 漢字の広場⑥ 三車とうけ だから鳥のほうけん 秋のくらし 詩のかふうを楽しもう カンジーはかせの音調かるた 漢字の広場⑦ ありの行列 つたわる言葉で表そう		⑨「読む」本と「調べる」本
下	10	これがわたしのお気に入り コンピュータのローマ字入力 わたしたちの学校じまん モジモジの本	⑩⑪⑫	⑩目次ってなんだろう？
				⑪目次と索引ってどうちがう？
				⑫「ベン図」を使ってみよう
	11		⑬⑭⑮	⑬キャッチコピーって なんだろう？
				⑭図書館で調べる手順
				⑮テーマを決める
	12		⑯⑰⑱	⑯本のひみつ
				⑰図書館で調べる手順
				⑱テーマを決める
	1		⑲⑳㉑	⑲本のひみつ
				⑳図書館で調べる手順
				㉑テーマを決める



教材へリンク

指導用教材データセット

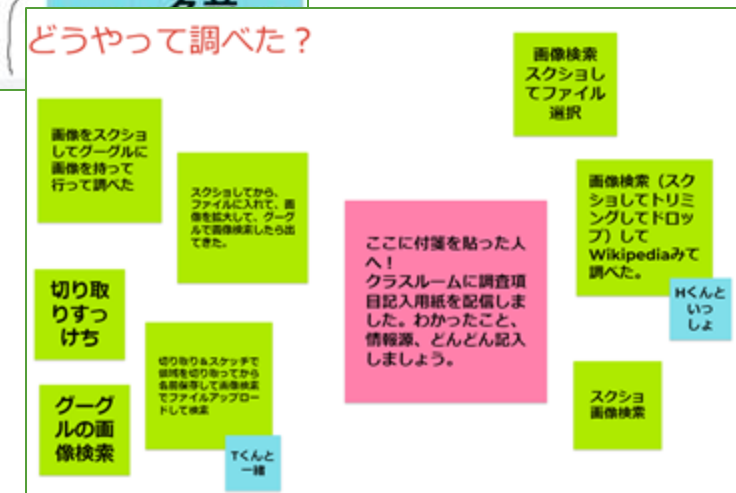
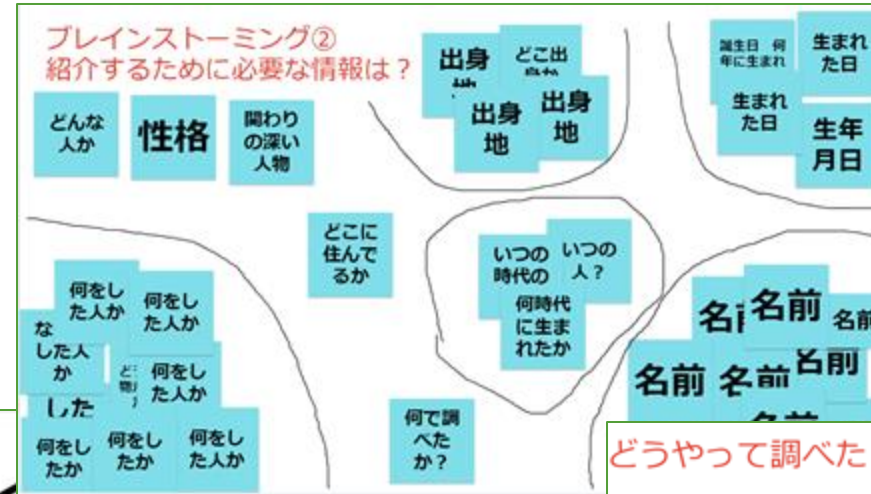
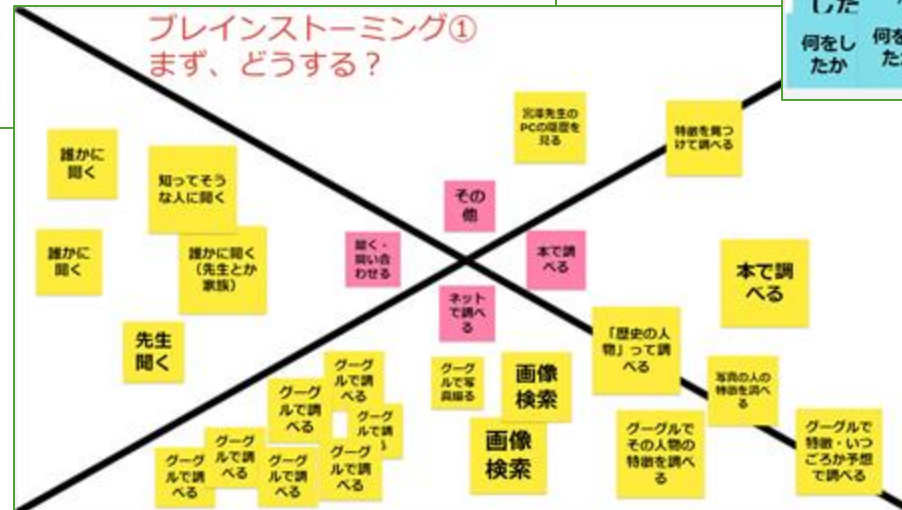
③目次と索引って「ベン図」をどうちがう？ ～目次と索引を使いわけ～ 3年③目次と索引ってどうち...	「ベン図」を使ってみよう！ ～シンキン～ 3年③ベン図を使ってみよう...	キャッチコピーってなんだろう？ ～ 3年③キャッチコピーってな...
調べる手順 ～図書館でなにかを調べたいとき、この順番をまもると上手に調べられるよ～ 3年③図書館で調べる手順★...	テーマを決める ～じぶんが知りたい～ 3年③テーマを決める★「知...	ものの分け方、くらべ方 ～どんな見方～ 3年③ものの分け方、くらべ...
図書館の本の分類とならび方 ～図書館～ 3年①本の分類とならび方★...	本のひみつ ～ 3年②本のひみつ★「図書館た...	類語辞典 ～にたいみのほかの言葉～ 3年③「類語辞典」★（2年下...

このレベルにはなる！
「自ら知りたいことを調べ、知る」



ミッション！
この写真の人物についてあらゆる
情報を調べ、紹介せよ！

写真だけしか情報がない場合、
さてあなたならどうする??



GIGAスクール時代の情報センター

さて、こんな未来があるようです

子どもたちと

インターネット世界やデジタルとの関わり

切り離せるのか？

切り離したらどうなるか？

無防備なまま放りだしたらどうなるか？

今の「社会」が無理ならば、
無理でしょう

すでに様々な課題がある

真剣に考えよう！

たとえばこれに対応できるのか？

- ・ フェイクニュースあふれる世界

事実と異なる報道

インターネット検索サイトなどで
利用者が欲しい情報に寄せていく
アルゴリズムにより、自分が欲し
ている情報「しか」見えない状態

- ・ フィルターバブルで膜が張られた世界

- ・ エコーチェンバー現象による誤解

自分と同じ意見・思想を持つ人々で構成された
場において、自分の意見・思想が肯定されるこ
とにより、本来の姿とは関係なくそれが正解で
あるかの如く見える現象

誰も守ってくれない世界

(学校でも・家でも・社会でも)

情報活用能力指導年間計画と 指導用教材のデータセット + α

情報活用能力年間指導計画

3年生	単元名	教材番号	教材タイトルとリンク	学習カード
上	1 ことばのつくり		① 事の種類とならべ方	
	2 ことばのつくり		② 事の種類とならべ方	
	3 ことばのつくり		③ (2年)「類語辞典」	
	4 ことばのつくり		④ 「引用」とは？	
	5 ことばのつくり		⑤ 出典・引用	
	6 ことばのつくり		⑥ シンキングツールとは？	
	7 ことばのつくり		⑦ イメージを使って	
	8 ことばのつくり		⑧ メモの	
	9 ことばのつくり		⑨ 「読む」の手順	
	10 ことばのつくり		⑩ 目次と索引ってどう使う？	
下	11 ことばのつくり		⑪ 目次と索引ってどう使う？	
	12 ことばのつくり		⑫ 「ペン図」を使ってみよう	
	1 ことばのつくり		⑬ キャッチコピーって	
	2 ことばのつくり		⑭ 図書館で調べる手順	
	3 ことばのつくり		⑮ テーマを決める	
	4 ことばのつくり		⑯ ものの分け方、くらべ方	
	5 ことばのつくり			
	6 ことばのつくり			
	7 ことばのつくり			
	8 ことばのつくり			

教材へリンク

指導用教材データセット

③ 目次と索引って「ペン図」を どう使う？ ～目次と索引を使い分けよう～	「ペン図」を 使ってみよう！ ～シンキング～	キャッチコピーって なんだろう？ ～
3年生目次と索引ってどう使...	3年生ペン図を使ってみよう...	3年生キャッチコピーってな...
手順	テーマを決める	ものの分け方、くらべ方
3年生図書館で調べる手順★...	3年生テーマを決める★「知...	3年生ものの分け方、くらべ...
図書館の本の 分類とならび方 ～図書～	本のひみつ	類語辞典
3年生本の分類とならび方★...	3年生本のひみつ★「図書館た...	3年生「類語辞典」★(2年下...

端末操作
タイピング

デジタルシティズ
ンシップ教育

インターネットで
の情報検索スキル

「ずかんのたつじんになろう！」



Googleフォームの活用による
低負荷なトレーニングの実現



トレーニングスタートの
前倒しの実現



低学年の図鑑活用スキル向上



低学年の自己調査の増加



小学校で必要な インターネット情報検索スキルとは？

インターネット検索の コツ① 最適なキーワードをその数値を分けて 読む、漢字、ひらがな、カタカナ	①-1 キーワードの最適化 キーワードの最適化は、検索結果の順位を上げることに効果的。 「高森はたるパーク」→「高森 公園」→「高森 公園 小学校」	①-2 キーワードの最適化 キーワードの最適化は、検索結果の順位を上げることに効果的。 「高森はたるパーク」→「高森 公園」→「高森 公園 小学校」	インターネット検索の コツ② 見る、聞く、読む、感じる、感じる、感じる、感じる	① 動画を視聴して、 調査のためのキーワードを拾おう キーワードが「ここにある」場合	①-1 まず、考えよう？ - 何を調べるの？ - 知りたいことは何？ - そのために必要なキーワードは何？ - キーワードをどうやって記録する？
①-2 キーワードの最適化 「AND検索」「OR検索」「NOT検索」 	②フレーズ検索 たとえば「高森はたるパーク」 「高森はたるパーク」→「高森 公園」→「高森 公園 小学校」	③「とは」の利用 「とは」は、検索結果の順位を上げることに効果的。 「高森はたるパークとは」→「高森 公園とは」→「高森 公園 小学校とは」	①-2 動画を視聴して、 調査のためのキーワードを拾おう - 動画の画像から拾う＝見る - 動画の音声から拾う＝聞く - テロップなどの文字情報から拾う＝読む	①-3 動画を見て ミッションをこなせ！ - 動画URLはこちら↓ (URL貼る) - ミッションはこちらのJamboard↓ (URL貼る)	②キーワードを拾う場所が限定されて いない キーワードが「ここにある」場合
④「*」の利用 たとえば「高森??小学校」 「高森??小学校」→「高森 公園 小学校」→「高森 公園 小学校 小学校」	②-1 まず、考えよう？ - 何を「知りたい」の？(テーマを自分で設定) - そのために必要なキーワードは何？ - キーワードをどこで拾う？ - キーワードをどうやって記録する？	①-2 自分でテーマを設定して そのテーマからキーワードを拾おう - 知りたいことは何か？を考え、テーマを設定する - テーマに関連したキーワードを考える - 調べた中で出てきた情報の中から 新たなキーワードを拾う	②-3 ミッションをこなせ！ - 自分でテーマを設定 - 設定したテーマの調査のために キーワードを設定↓ - ミッションのためのJamboard (URL貼る)		

そもそも検索窓に入れる「キーワード」のことからスタート

子どもたちの

情報活用能力の向上は

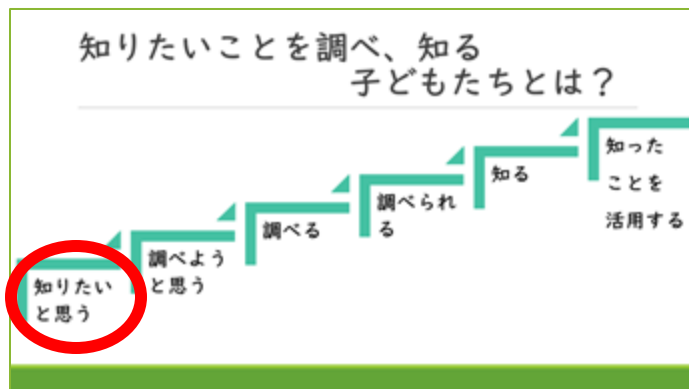
彼らの活動の幅を広げる

今の環境では使えないツールでも 有効な形で「見せておく」

- ・オンライン書店のレコメンド機能
- ・各種SNSでの情報収集事例
- ・チャットボット
- ・AI
- ・動画配信サイトからの情報収集

「見せる」「出会う」→「知りたいと思う」

～ 3Dプリンターとの出会い＝デジタル世界への好奇心の喚起～



情報センターのスタンダード

アナログにもデジタルにも対応した

- ・ なんでも調べられる、知ることができる
情報活用能力を授け
- ・ 自分の課題を
自分で解決していく力を育てる

GIGAスクール時代の 学校図書館の課題

～やること山盛り、できることも山盛り～

授業に**準拠**したデジタル資料の必要性

有料データベース

- ・新聞データベース

有料ツール

- ・Sagasokka！（オンライン百科事典）

電子書籍図書館

- ・自治体運営 ・学校契約

無料データベース

- ・CiNii ・ジャパンサーチ
- ・J-STAGE ・e国宝
- ・NDLサーチ ・ColBase
- ・全国遺跡報告総覧 ・地理院地図

無料ツール

- ・Googleブックス
- ・Google Scholar

デジタル特有の課題

- ・ フィジカルな実態がない
- ・ デバイスが必要
- ・ デジタルスキル
- ・ デジタルデバイス

変化する「必要なスキル」 こども編

- ・ デジタルシティズンシップ
- ・ 著作権・肖像権等
- ・ ファクトチェック、フィルターバブルへの対処としての
批判的思考（クリティカルシンキング） など

これまでのスキルに**上乗せ**が必要

変化する「必要なスキル」 大人編

- ・ ICTスキル
- ・ ICTを活用した学びのデザイン
- ・ 抑制型→活用型への転換のための方法論
- ・ 著作権、肖像権等の知識
- ・ 教育技術

など

個人レベルでのスキル
＋
教育技術

これまでのスキルに**上乗せ**が必要

課題に即した教材をきちんと紹介①

経済産業省「未来の教室」が運営する、STEAM教育を通じてSDGsに掲げられる社会課題の解決手法を学べる
オンライン図書館「STEAMライブラリー」に掲載されている教材

「GIGAスクール時代のテクノロジーとメディア

～デジタル・シティズンシップから考える創造活動と学びの社会化」

を紹介する

指導案＋スライド＋動画＋ワークシート
全部そろっている！すぐできる！



<https://www.steam-library.go.jp/content/132>



デジタル情報の
見える化

課題に即した教材をきちんと紹介②

公益社団法人著作権情報センター(CRIC)／一般社団法人日本教育情報化振興会(JAPET)

5分でできる著作権教育

https://chosakuken.jp/example_list.html



文化庁

文化庁 はじめて学ぶ著作権

https://pf.bunka.go.jp/chosaku/chosakukuk/en/hakase/hajimete_1/index.html



学校図書館の整った環境とは？

～必要な環境を考える～

I : 資料・情報が十分にある①

多様な資料・情報

- ・印刷媒体

(本・雑誌・新聞等)

- ・デジタルデータ

(デジタルアーカイブ・データベース)

- ・授業に関連しない資料・情報

→ 出会い、刺激、ひらめき

Ⅰ：資料・情報が十分にある②

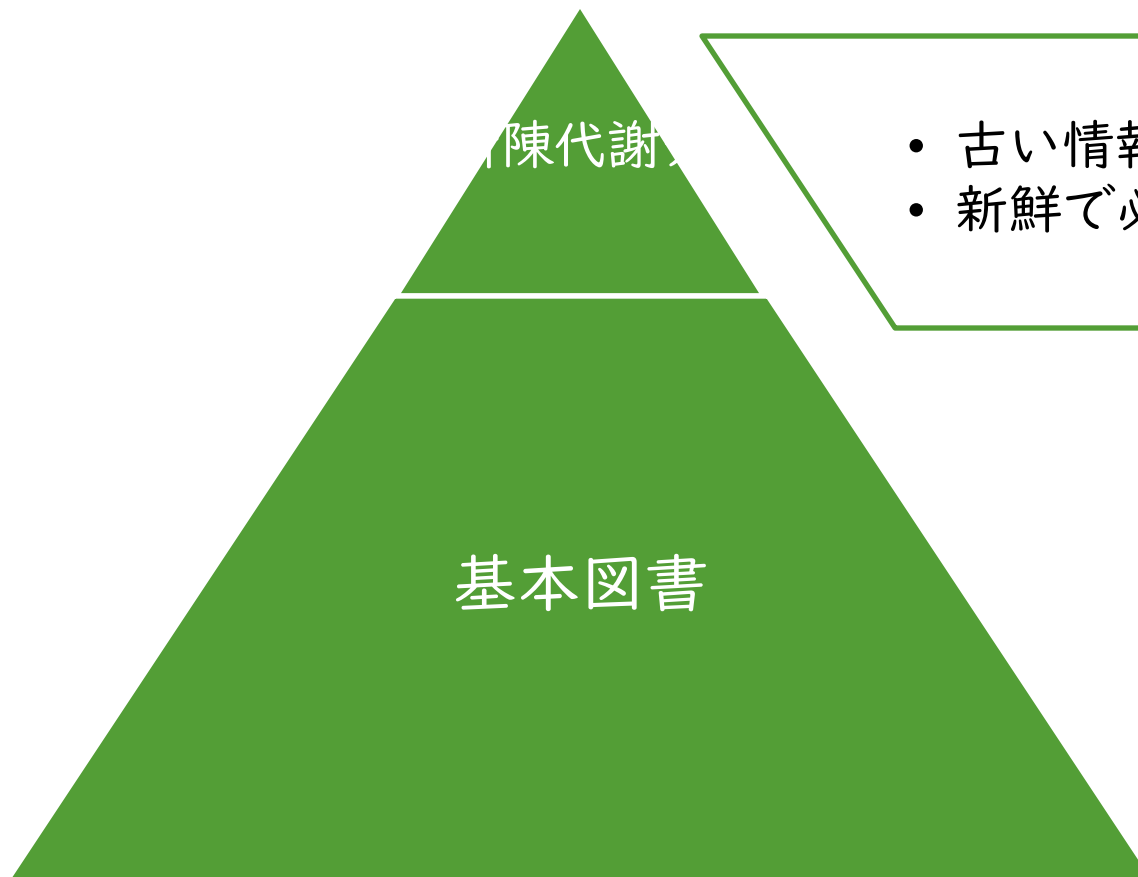
十分な分量

- ・ 学校図書館図書標準

「学校図書館図書標準」 というものがあります



= 学校図書館図書標準



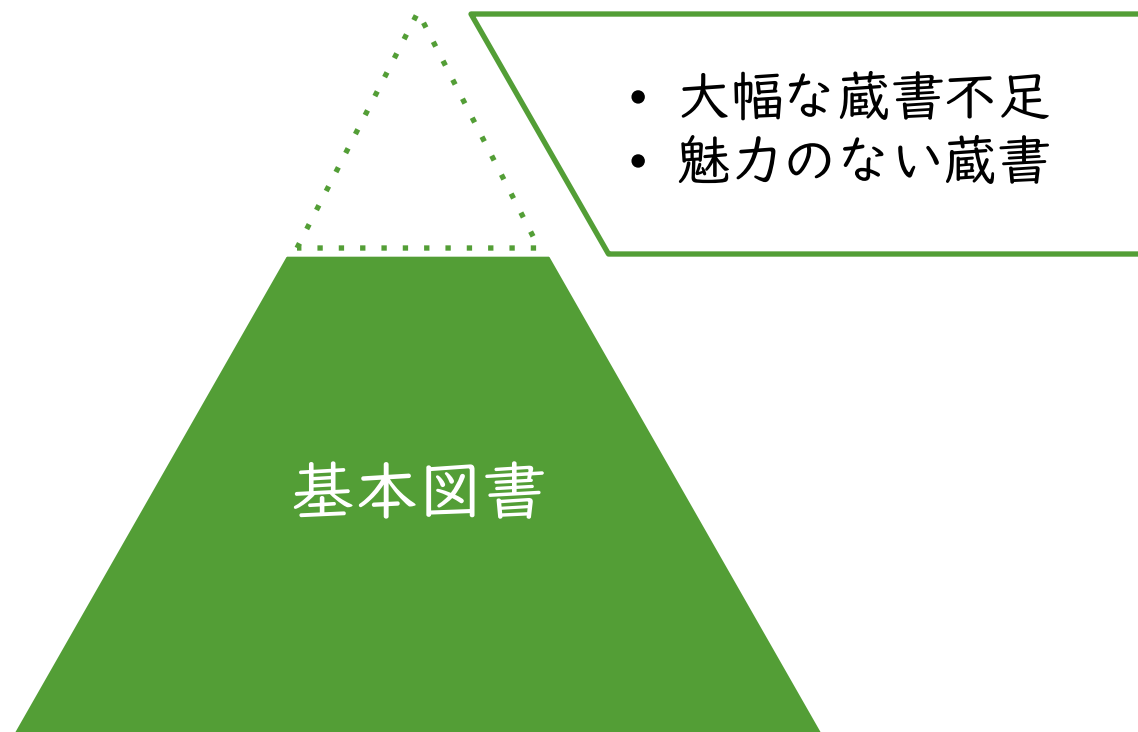
- 古い情報、汚損資料を廃棄
- 新鮮で必要な情報を入れる

学校図書館図書標準の想定

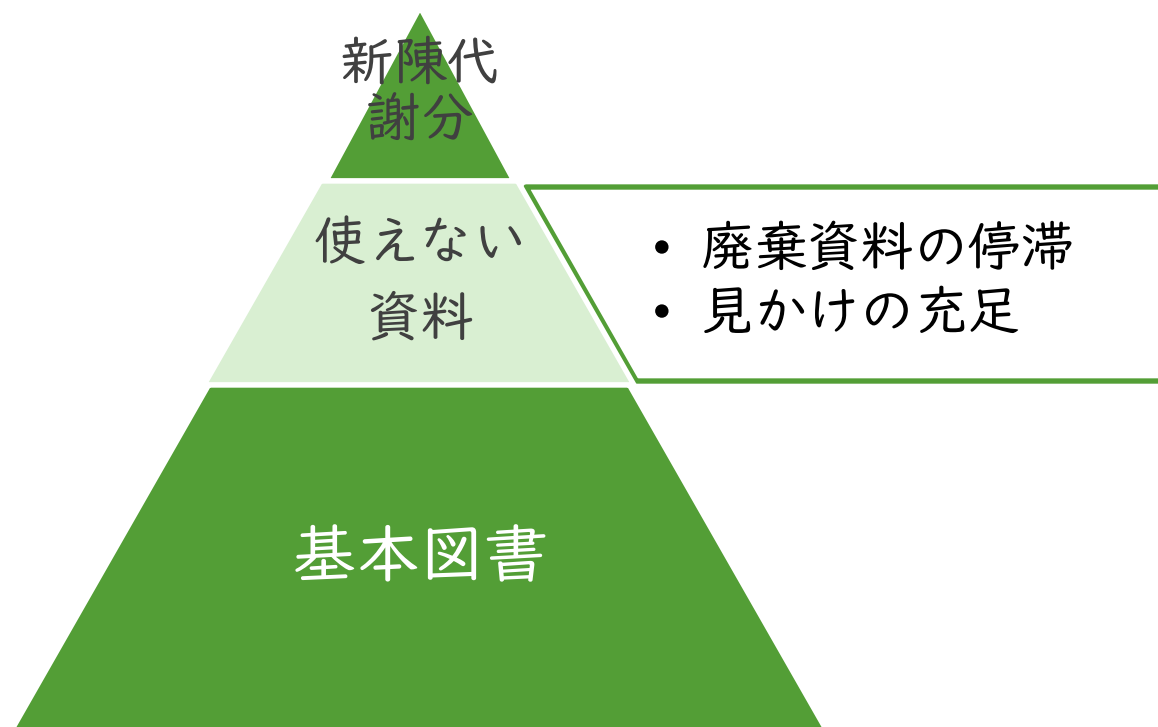
予算がない学校図書館の蔵書遷移



= 学校図書館図書標準



事例 ①



事例 ②

Ⅰ：資料・情報が十分にある③

十分な予算

・機能を十分果たすだけの、最低額は？

物がない

「2023年度学校図書館整備施策に関するアンケート」全国図書館協議会(SLA)20250331現在

小学校 約47.6万円

中学校 約61.2万円

「2023年度学校図書館調査・20230年度の平均図書購入費」全国図書館協議会(SLA)

小学校 約45.4万円

中学校 約65.3万円

学校図書館資料費 年平均額

ざっくりいうと50万円

これは多いのか？少ないのか？

令和6年度 小学校の教科書が変わりました

光村図書「国語」

教材末掲載資料 ￥529451 + 巻末付録掲載資料 ￥427669

合計 ￥957120

- ・ 半分入れ替わるとして約50万
- ・ 国語科だけの金額

2：授業活用ができる

- ・なんでもある
- ・全員が一斉に使える
- ・誰もが使える
- ・いつでも使える
- ・何度でも使える
- ・場がある
- ・人がいる
- ・運用・活用計画がある

3：図書館としての空間がある

多様な活動が担保された「場」

- ・さまざまな使い方ができる閲覧席
(可動式の机、電源、照明、Wi-Fi)
- ・ディスカッションのためのツール
(ホワイトボード、電子黒板、プロジェクター)
- ・クリエイティブな場
(ラボ、キッチン、スタジオ)

4：心理的安全がある

- ・ 基本的人権がある

(理不尽なルールがない・秘密が守られる・拒絶ができる)

- ・ 自由がある

(何を読んでも良い・読まなくても良い)

あなたの学校図書館には 何が足りない？

～ピックアップと実装に向けた行動を～

さて、

これらを現場で
実際に機能させる主体は

いったい誰でしょう？

子どもたちの 10年後、20年後を見据えて

使えるものは、何でも使う
提供できるものは、何でも提供する
できることは、何でもする

紙も、デジタルも

「協働」によってそれが可能になる
GIGAスクールによってそれが可能になった

今の最先端は10年後の時代遅れ

- ・ 図書館「**像**」(公共も学校も)のアップデート
- ・ 時代に必要な「**教育**」と「**教育観**」
- ・ 子ども達が社会に出る「**未来**」を見通す

図書館は、なにをすることで？

よ
読む

しら
調べる

し
知る

たの
楽しむ

かんが
考える

つく
作る

くつろぐ

なんにも
しない